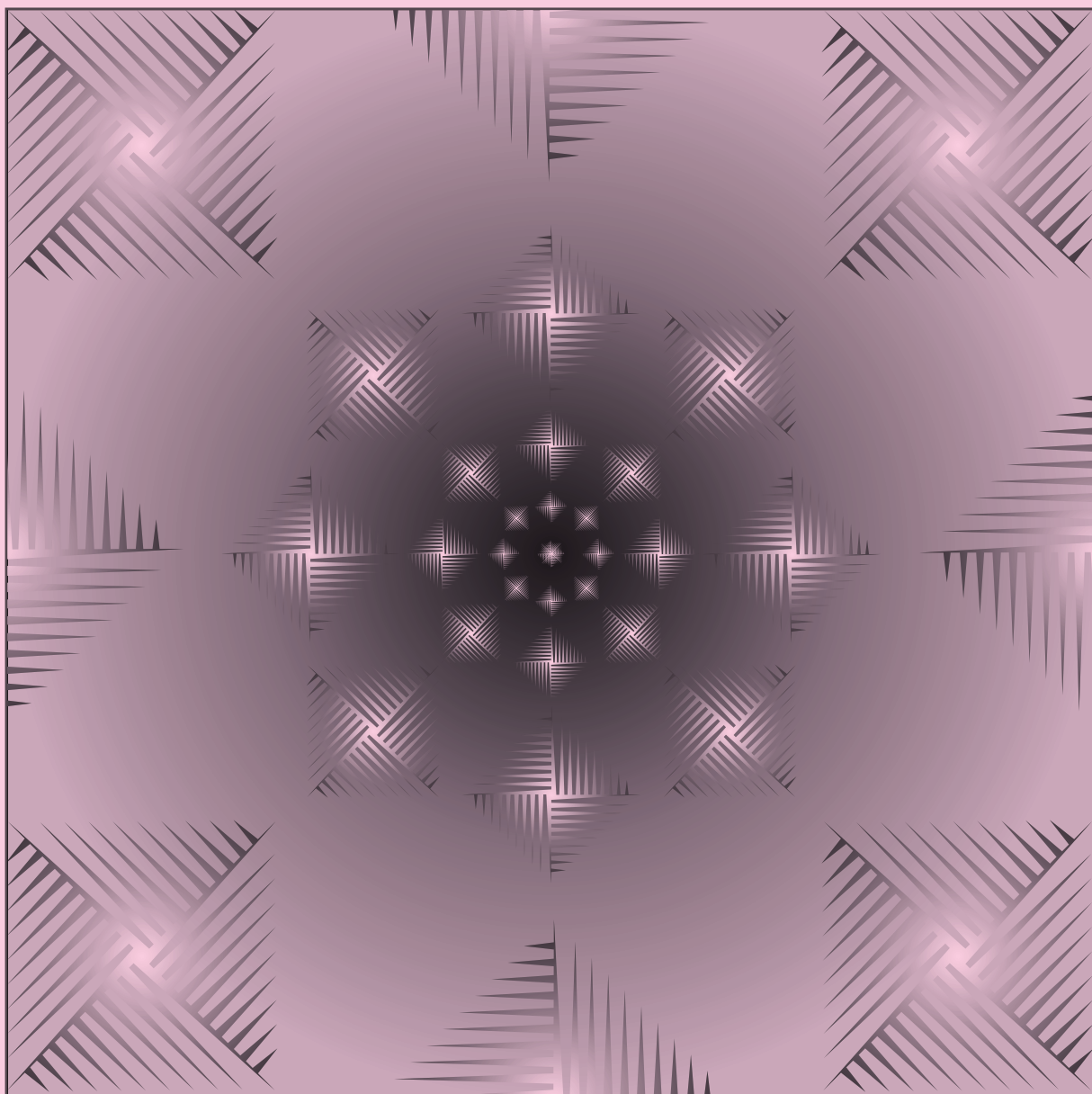

2010年度

シラバス ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

— 目 次 —

シラバスの見方	-----	2
ドイツ語学科授業科目（2009 年度入学生用）		
外国語科目、演習科目	-----	3
概論・専門講義・テキスト研究科目、交流文化論	-----	4
ドイツ語学科授業科目（2005 年度以降入学生用）		
学科基礎科目、学科共通科目	-----	5
学科専門科目 「Ⅰ 類部門」、「Ⅱ 類部門」	-----	6
学科専門科目 「Ⅲ 類部門」、卒業論文	-----	7
外国語学部共通科目	-----	8
担当者別シラバス	-----	9

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. ドイツ語学科授業科目表について

①シラバスページの検索方法

ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

科目は、学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
〈略称説明〉

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科	全：ドイツ語学科以外の全学部学科	営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科			総：総合政策学科
交：交流文化学科			
言：言語文化学科			

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者
08年度以前……2008年度以前入学者
05年度以降……2005年度以降入学者
04年度以前……2003～2004年度入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目もあります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

ドイツ語学科授業科目(2009年度～2010年度入学者用)

外国語科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	11
	応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全	12
	応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全	12
20562	中級ドイツ語リーディング a	J. シャルロート	春	火1	1	2		13
20564	中級ドイツ語リーディング b	J. シャルロート	秋	火1	1	2		13
20568	中級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	火4	1	2		14
20570	中級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	火4	1	2		14
20573	中級ドイツ語ライティング a	P.ハインリヒ	春	金1	1	2		15
20576	中級ドイツ語ライティング b	P.ハインリヒ	秋	金1	1	2		15
20579	中級ドイツ語ライティング a	A. ヴェルナー	春	金2	1	2		16
20580	中級ドイツ語ライティング b	A. ヴェルナー	秋	金2	1	2		16
20821	中級ドイツ語スピーキング a	I. アルブレヒト	春	木1	1	2		17
20822	中級ドイツ語スピーキング b	I. アルブレヒト	秋	木1	1	2		17
20581	中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		18
20583	中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		18
20825	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	小林 和貴子	春	火4	1	2		19
20826	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	小林 和貴子	秋	火4	1	2		19
20823	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	前田 直子	春	金3	1	2		20
20824	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	前田 直子	秋	金3	1	2		20
20584	英語	M. J. クロフォード	春	木1	1	2		21
20585	英語	M. J. クロフォード	秋	木1	1	2		21

演習科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
19570	ドイツ語圏入門Ⅰ	大重 光太郎	春	水3	2	1	全	22
19571	ドイツ語圏入門Ⅱ	大重 光太郎	秋	水3	2	1	全	22
	基礎演習Ⅰ	各担当教員	春		2	2	全	23
	基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋		2	2	全	23

概論・専門講義・テキスト研究科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
20493	ドイツ語概論 a	金井 満	春	木1	2	1	交	38
20494	ドイツ語概論 b	金井 満	秋	木1	2	1	交	38
20495	ドイツ語圏文学・思想概論 a	矢羽々 崇	春	火1	2	1	交	39
20496	ドイツ語圏文学・思想概論 b	矢羽々 崇	秋	火1	2	1	交	39
20989	ドイツ語圏の言語 a	木内 基実	春	月5	2	2		40
20990	ドイツ語圏の言語 b	木内 基実	秋	月5	2	2		40
20991	ドイツ語圏の文学 a	石丸 昭二	春	水3	2	2		41
20992	ドイツ語圏の文学 b	石丸 昭二	秋	水3	2	2		41
20993	ドイツ語圏の思想 a	渡部 重美	春	金2	2	2		42
20994	ドイツ語圏の思想 b	渡部 重美	秋	金2	2	2		42
20497	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木4	2	1	交	53
20498	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木4	2	1	交	53
20995	ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月2	2	2		54
20996	ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月2	2	2		54
20997	ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金2	2	2		55
20998	ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金2	2	2		55
21000	ドイツ語圏の演劇 a	山本 淳	春	月3	2	2		56
21001	ドイツ語圏の演劇 b	山本 淳	秋	月3	2	2		56
21003	ドイツ語圏のメディア文化 a	下川 浩	春	金5	2	2		57
21004	ドイツ語圏のメディア文化 b	下川 浩	秋	金5	2	2		57
19578	ドイツ語圏現代社会概論 a	大串 紀代子	春	火4	2	1		66
19579	ドイツ語圏現代社会概論 b	大串 紀代子	秋	火4	2	1		66
20878	ドイツ語圏歴史概論 a	古田 善文	春	木5	2	1	交	67
20879	ドイツ語圏歴史概論 b	古田 善文	秋	木5	2	1	交	67
21005	ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	月1	2	2		68
21006	ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	月1	2	2		68
21007	ドイツ語圏の歴史 a	黒田 多美子	春	火2	2	2		69
21008	ドイツ語圏の歴史 b	黒田 多美子	秋	火2	2	2		69
21009	ドイツ語圏の地域・環境問題 a	飯嶋 曜子	春	火1	2	2		70
21010	ドイツ語圏の地域・環境問題 b	飯嶋 曜子	秋	火1	2	2		70
21011	ドイツ語圏とEU a	飯嶋 曜子	春	火3	2	2	全	71
21012	ドイツ語圏とEU b	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2	全	71

交流文化論(09年度以降入学者)

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20565	交流文化論(ツーリズム文化論)	太田 勉	春	月4	2	2	交・養 経・法	81
20598	交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	春	月5	2	2	交・養 経・法	82
20593	交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養 経・法	83
20594	交流文化論(航空産業論)	遠藤 充信	春	木3	2	2	交・養 経・法	84
20601	交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	金2	2	2	交・養 経・法	85
20602	交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	86
20597	交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	87
20595	交流文化論(サステナブル・ツーリズム論)	北野 収	秋	月5	2	2	交・養 経・法	88
20575	交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養 経・法	89
20592	交流文化論(ツーリズム政策論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養 経・法	90
20571	交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	遠藤 充信	秋	木3	2	2	交・養 経・法	91
20567	交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養 経・法	92
20604	交流文化論(食の文化論)	北野 収	秋	金1	2	2	交・養 経・法	93
20600	交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	秋	金2	2	2	交・養 経・法	94
20603	交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	95
20596	交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金4	2	2	交・養 経・法	96
20599	交流文化論(メディア・ライティング論)	阿部 純一	秋	土1	2	2	交・養 経・法	97

ドイツ語学科授業科目(2005～2008年度入学者用)

学科基礎科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	9
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	11
09961	ドイツ語LLⅠ	小林 和貴子	春	火4	1	1		19
10132	ドイツ語LLⅡ	小林 和貴子	秋	火4	1	1		19
09965	ドイツ語LLⅠ	前田 直子	春	金3	1	1		20
10128	ドイツ語LLⅡ	前田 直子	秋	金3	1	1		20
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	12
	基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	12
09966	ドイツ語圏入門Ⅰ	大重 光太郎	春	水3	2	1	全	22
09967	ドイツ語圏入門Ⅱ	大重 光太郎	秋	水3	2	1	全	22
11716	基礎演習Ⅰ	各担当教員	春		2	2	全	23
11724	基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋		2	2	全	23

学科共通科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		1	3	全	24
	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		1	3	全	24
13801	上級ドイツ語(時事)	H. H. ゲートケ	春	火4	2	3		25
13802	上級ドイツ語(時事)	H. H. ゲートケ	秋	火4	2	3		25
13799	上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	春	金2	2	3		26
13800	上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	秋	金2	2	3		26
13789	上級ドイツ語(会話)	S. ヴィーク	春	火2	2	3		27
13791	上級ドイツ語(会話)	S. ヴィーク	秋	火2	2	3		27
13792	上級ドイツ語(会話)	P.ハインリヒ	春	水1	2	3		28
13793	上級ドイツ語(会話)	P.ハインリヒ	秋	水1	2	3		28
13783	上級ドイツ語(会話)	D. オルランド	春	木1	2	3		29
13784	上級ドイツ語(会話)	D. オルランド	秋	木1	2	3		29
13794	上級ドイツ語(会話)	M. G. シュミット	春	木1	2	3		30
13885	上級ドイツ語(会話)	M. G. シュミット	秋	木1	2	3		30
13785	上級ドイツ語(会話)	J. シュトライト	春	木3	2	3		31
13787	上級ドイツ語(会話)	J. シュトライト	秋	木3	2	3		31
13803	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー阿部	春	月3	2	3		32
13804	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー阿部	秋	月3	2	3		32
13795	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	春	火1	2	3		33
13796	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	秋	火1	2	3		33
13797	上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	春	金1	2	3		34
13798	上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	秋	金1	2	3		34
21037	上級ドイツ語特殊演習	K. ゲーネンツ	秋	火4	2	3		35
10031	中世ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	火2	2	3		36
10032	中世ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	火2	2	3		36
11481	通訳特殊演習Ⅰ	青山 愛香	春	水2	2	3		37
11482	通訳特殊演習Ⅱ	青山 愛香	秋	水2	2	3		37

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09968	ドイツ語学概論Ⅰ	金井 満	春	木1	2	1		38
09969	ドイツ語学概論Ⅱ	金井 満	秋	木1	2	1		38
09970	ドイツ文学概論Ⅰ	矢羽々 崇	春	火1	2	1		39
09971	ドイツ文学概論Ⅱ	矢羽々 崇	秋	火1	2	1		39
11726	ドイツ語学各論Ⅰ	木内 基実	春	月5	2	2		40
11727	ドイツ語学各論Ⅱ	木内 基実	秋	月5	2	2		40
11728	ドイツ文学各論Ⅰ	石丸 昭二	春	水3	2	2		41
11729	ドイツ文学各論Ⅱ	石丸 昭二	秋	水3	2	2		41
21036	ドイツ語学・文学特殊講義	K. ゲーネンツ	秋	火3	2	3		43
21038	ドイツ語学・文学特殊講義	K. ゲーネンツ	秋	水3	2	3		44
10037	ドイツ語講読(語学)	柿沼 義孝	春	火1	2	3		45
10038	ドイツ語講読(語学)	柿沼 義孝	秋	火1	2	3		45
10035	ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	春	水2	2	3		46
10036	ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	秋	水2	2	3		46
10033	ドイツ語講読(語学)	P.ハインリヒ	春	金2	2	3		47
10034	ドイツ語講読(語学)	P.ハインリヒ	秋	金2	2	3		47
10043	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	春	火3	2	3		48
10044	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	秋	火3	2	3		48
10041	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木1	2	3		49
10042	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木1	2	3		49
10045	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	春	木2	2	3		50
10046	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	秋	木2	2	3		50
10039	ドイツ語講読(文学)	山口 祐子	春	木3	2	3		51
10040	ドイツ語講読(文学)	山口 祐子	秋	木3	2	3		51
21039	ドイツ語学・文学特殊講読	K. ゲーネンツ	秋	水4	2	3		52

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09974	ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	春	木4	2	1		53
09975	ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	秋	木4	2	1		53
11734	ドイツの思想Ⅰ	渡部 重美	春	金2	2	2		42
11735	ドイツの思想Ⅱ	渡部 重美	秋	金2	2	2		42
11732	ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	春	金2	2	2		55
11733	ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	秋	金2	2	2		55
11736	ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	春	月2	2	2		54
11737	ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	秋	月2	2	2		54
11730	ドイツの演劇Ⅰ	山本 淳	春	月3	2	2		56
11731	ドイツの演劇Ⅱ	山本 淳	秋	月3	2	2		56
11738	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	春	金5	2	2		57
11739	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	秋	金5	2	2		57
10047	ドイツ語講読(思想)	山路 朝彦	春	月4	2	3		58
10048	ドイツ語講読(思想)	山路 朝彦	秋	月4	2	3		58
10049	ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	春	火2	2	3		59
10050	ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	秋	火2	2	3		59
10053	ドイツ語講読(思想)	前田 智	春	木2	2	3		60
10054	ドイツ語講読(思想)	前田 智	秋	木2	2	3		60
10051	ドイツ語講読(思想)	宮村 重徳	春	金3	2	3		61
10052	ドイツ語講読(思想)	宮村 重徳	秋	金3	2	3		61
10062	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	春	月3	2	3		62
10063	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	秋	月3	2	3		62
10059	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	春	火1	2	3		63
10060	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	秋	火1	2	3		63
10057	ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	春	水2	2	3		64
10058	ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	秋	水2	2	3		64
10055	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木1	2	3		65
10056	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		65

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09976	ドイツ史概論Ⅰ	古田 善文	春	木5	2	1		67
09977	ドイツ史概論Ⅱ	古田 善文	秋	木5	2	1		67
11740	ドイツの歴史Ⅰ	黒田 多美子	春	火2	2	2		69
11741	ドイツの歴史Ⅱ	黒田 多美子	秋	火2	2	2		69
11746	ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火1	2	2		70
11747	ドイツの地誌・民俗Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火1	2	2		70
11748	ドイツの政治・対外関係Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火3	2	2	全	71
11749	ドイツの政治・対外関係Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2	全	71
11750	ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	春	月1	2	2		68
11751	ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	秋	月1	2	2		68
11742	ドイツの法律Ⅰ	市川 須美子	春	木3	2	2	法	72
11743	ドイツの法律Ⅱ	宗田 貴行	秋	木3	2	2	法	72
10066	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	春	火4	2	3		73
10067	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	秋	火4	2	3		73
10064	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水3	2	3		74
10065	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水3	2	3		74
10068	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水4	2	3		75
10069	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水4	2	3		75
10074	ドイツ語講読(社会)	林部 圭一	春	月3	2	3		76
10075	ドイツ語講読(社会)	林部 圭一	秋	月3	2	3		76
10072	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	春	火3	2	3		77
10073	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	秋	火3	2	3		77
10076	ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	春	水2	2	3		78
10077	ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	秋	水2	2	3		78
10070	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	春	金2	2	3		79
10071	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	秋	金2	2	3		79
08466	卒業論文	黒田 多美子	通年	水3	8	4		80

外国語学部共通科目

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
19598	総合講座	工藤 和宏	春	水3		2	1	養・経・法	99
19599	総合講座	工藤 和宏	秋	水3		2	1	養・経・法	99
07691	総合講座	廣田 愛理	秋	水2		2	1	養・経・法	100
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	101
	情報科学概論b	休講							
	(入門)情報科学各論	各担当教員							102～104
19458	(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	
19460		田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	
19456		長崎 等	春	水1	50	2	1	養・経・法	
19455		内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	
19592	(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	
19593		羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	
15229	(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	
14281		田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	
15230		金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	
14282		田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	
	(応用)情報科学各論	各担当教員							105～108
19471	(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	30	2	1	養・経・法	
19450		内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養・経・法	
19462		田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	
19472		松山 恵美子	秋	水2	30	2	1	養・経・法	
19463	(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養・経・法	
19464		金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養・経・法	
19465	(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養・経・法	
19467		金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	
19454		内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	
19459		田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	
19457		長崎 等	秋	水1	30	2	1	養・経・法	
19453		内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	
19469	(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	30	2	1	養・経・法	
19470		松山 恵美子	秋	水3	30	2	1	養・経・法	
16993	(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	109
16994		吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	110
15232	(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	109
15234		吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	110
	(HTML)情報科学各論	各担当教員							111
19451	(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	
19452		内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	
19466		金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	
19461		田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	
19468	(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	112
00087	経済原論a	井上 智弘	春	水2	350	2	1	養・経・法	113
00088	経済原論b	井上 智弘	秋	水2	350	2	1	養・経・法	113
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず結果を確認してください。
 ※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論／重複可否一覧」を参考にしてください。

ドイツ語学科科目シラバス

05 年度以降	総合ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 1 2. " 3. Lektion 2 4. " 5. Lektion 3 6. " 7. Lektion 4 8. " 9. Lektion 5 10. " 11. Lektion 6 12. " 13. Lektion 7 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 1</i> を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）		出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 8 2. " 3. Lektion 9 4. " 5. Lektion 10 6. " 7. Lektion 11 8. " 9. Lektion 12 10. " 11. Lektion 13 12. " 13. Lektion 14 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 2</i> を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）		出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2 名のネイティブ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 2 年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を目指します。また、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目標とします。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 1 2. " 3. Lektion 2 4. " 5. Lektion 3 6. " 7. Lektion 4 8. " 9. Lektion 5 10. " 11. Lektion 6 12. " 13. Lektion 7 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 3</i> の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）		出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語Ⅳ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2 名のネイティブ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 2 年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を目指します。また、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目標とします。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 8 2. " 3. Lektion 9 4. " 5. Lektion 10 6. " 7. Lektion 11 8. " 9. Lektion 12 10. " 11. Lektion 13 12. " 13. Lektion 14 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 4</i> の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラス・別教材です。）		出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V へ進めません。	

05 年度以降	基礎ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. <未習クラス> テキストの 1～10 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス> 矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス> 初回授業時に指示		<未習クラス> 学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス> 初回授業時に指示	

05 年度以降	基礎ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. <未習クラス> テキストの 11～20 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス> 矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス> 初回授業時に指示		<未習クラス> 学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス> 初回授業時に指示	

09年度以降 08年度以前	応用ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、すでに基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱを修得済みの学生を対象に、ドイツ語の基礎能力のうち、読解と作文の能力のさらなる発展を目指します。 中級にレベルアップするためには、辞書をていねいに引く能力が求められます。そのためにも、授業に参加する際は、必ず予習を行うことが望まれます。また、適宜小テストを行うので、復習することも大切です。 授業時間外での学習はもちろん、出席についても期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席するようにしてください。 詳しいことについては、最初の授業時間に説明します。必ず出席してください。		第1回の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で指示します。 参考文献例： 清野智昭『中級ドイツ語のしくみ』白水社、2008年 中島・朝倉・平尾『必携ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年		小テストおよび学期末試験（出席による受験制限があります）	

09年度以降 08年度以前	応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅳ	担当者	各教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、すでに基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱを修得済みの学生を対象に、ドイツ語の基礎能力のうち、読解と作文の能力のさらなる発展を目指します。 中級にレベルアップするためには、辞書をていねいに引く能力が求められます。そのためにも、授業に参加する際は、必ず予習を行うことが望まれます。また、適宜小テストを行うので、復習することも大切です。 授業時間外での学習はもちろん、出席についても期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席するようにしてください。 詳しいことについては、最初の授業時間に説明します。必ず出席してください。		第1回の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で指示します。		小テストおよび学期末試験（出席による受験制限があります）	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir gemeinsam einfache Texte: Flugblätter, kurze Nachrichten, Internetforen, Songtexte usw. Verschiedene Aufgaben werden zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet. Wir besprechen dann zusammen im Unterricht: - schwierige Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes Die Unterrichtssprache ist Deutsch. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		1. bis 6. Stunde: Lesen von 2-3 Texten 7. Stunde: Test zu den Texten 8. bis 13. Stunde: Lesene von 2-3 Texten 14. Stunde: Test zu den Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir gemeinsam einfache Texte: Flugblätter, kurze Nachrichten, Internetforen, Songtexte usw. Verschiedene Aufgaben werden zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet. Wir besprechen dann zusammen im Unterricht: - schwierige Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes Die Unterrichtssprache ist Deutsch. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		1. bis 6. Stunde: Lesen von 2-3 Texten 7. Stunde: Test zu den Texten 8. bis 13. Stunde: Lesene von 2-3 Texten 14. Stunde: Test zu den Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für Diskussionen oder andere weiterführende Arbeiten. Neben Sachtexten stehen auch Kurzgeschichten oder Krimis zur Auswahl. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.		1-2 Sachtext (Thema steht noch nicht fest) 3-4 Sachtext (Thema steht noch nicht fest) 5-8 Brigitte Braucke: Der Bekannte 9-12 Franziska Jaekel: Der Tote in der U-Bahn 13-14 Sachtext (Thema steht noch nicht fest)	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für Diskussionen oder andere weiterführende Arbeiten. Neben Sachtexten stehen auch Kurzgeschichten oder Krimis zur Auswahl. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.		1-2 Sachtext (Thema steht noch nicht fest) 3-4 Sachtext (Thema steht noch nicht fest) 5-7 Leonhard Thoma: Verlieren 8-11 Anemone Fesl: Der letzte Gast 12-14 Sachtext (Thema steht noch nicht fest)	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs üben wir das Schreiben verschiedener Texttypen (Brief, E-Mail, Essay usw.). Dazu ist auch das Üben feststehender sprachlicher Routinen notwendig, die wir in diesem Kurs behandeln. Im Kurs werden jede Woche neue Texte geschrieben, die entweder frei oder mit Stichwortlisten verfasst werden. Diese Texte werden anschließend gemeinsam im Unterricht besprochen und korrigiert. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		1 Besprechung der Themen 2-6 Einfache Texte und Texttypen 7 Test 8-12 Komplexere Texte und Texttypen 13 Test 14 Zusammenfassung der Ergebnisse	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stichwortlisten werden im Kurs ausgegeben		Bewertungskriterien: Test (60%), Mitarbeit im Kurs, Hausaufgaben (40%)	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs üben wir das Schreiben verschiedener Texttypen (Brief, E-Mail, Essay usw.). Dazu ist auch das Üben feststehender sprachlicher Routinen notwendig, die wir in diesem Kurs behandeln. Im Kurs werden jede Woche neue Texte geschrieben, die entweder frei oder mit Stichwortlisten verfasst werden. Diese Texte werden anschließend gemeinsam im Unterricht besprochen und korrigiert. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		1 Besprechung der Themen 2-6 Einfache Texte und Texttypen 7 Test 8-12 Komplexere Texte und Texttypen 13 Test 14 Zusammenfassung der Ergebnisse.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stichwortlisten werden im Kurs ausgegeben		Bewertungskriterien: Test (60%), Mitarbeit im Kurs, Hausaufgaben (40%)	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir üben Schreiben. Zu einem bestimmten Thema üben wir einfache, aber längere Texte zu schreiben. Wir schreiben in verschiedenen Textsorten, wie Brief, E-Mail, Report, Zusammenfassung, usw. Vor allem üben wir: Satzverbindungen (aber, wenn, daraufhin, usw.) feststehende Ausdrücke (um die Ecke biegen, usw.), Schreibroutinen (Grußformeln, Einleitung, usw.). 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします(それ以外の学生も受講可)。		1. Einführung 2.-6. Schreibübungen 7. Test 8.-13. Schreibübungen 14. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		Mitarbeit, Anwesenheit, Hausaufgaben, 2 Tests	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir üben Schreiben. Zu einem bestimmten Thema üben wir einfache, aber längere Texte zu schreiben. Wir schreiben in verschiedenen Textsorten, wie Brief, E-Mail, Report, Zusammenfassung, usw. Vor allem üben wir: Satzverbindungen (aber, wenn, daraufhin, usw.) feststehende Ausdrücke (um die Ecke biegen, usw.), Schreibroutinen (Grußformeln, Einleitung, usw.). 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします(それ以外の学生も受講可)。		1. Einführung 2.-6. Schreibübungen 7. Test 8.-13. Schreibübungen 14. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		Mitarbeit, Anwesenheit, Hausaufgaben, 2 Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Konversationsunterricht werden aktuelle Themen besprochen und diskutiert, eventuell in Kurzreferaten vorgestellt. Dazu gibt es Übungen zur Wortschatzerweiterung und Ausdrucksweise sowie zur Grammatik. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Niveau, Wünschen und Bedürfnissen in der ersten Stunde festgelegt. Bitte nicht versäumen!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige aktive Teilnahme am Unterricht, Schlusstest	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Konversationsunterricht werden aktuelle Themen besprochen und diskutiert, eventuell in Kurzreferaten vorgestellt. Dazu gibt es Übungen zur Wortschatzerweiterung und Ausdrucksweise sowie zur Grammatik. 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします（それ以外でも意欲があれば受講を妨げない）。		Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Niveau, Wünschen und Bedürfnissen in der ersten Stunde festgelegt. Bitte nicht versäumen!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige aktive Teilnahme am Unterricht, Schlusstest	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs suchen wir gemeinsam nach geeigneten Themen für Smalltalk und sammeln Gesprächsstoff zum Plaudern mit Freunden oder Bekannten. Wir simulieren zufälliges Zusammentreffen unterwegs oder im Café und üben Initiieren leichter Unterhaltung und schnelles verbales Reagieren wenn angesprochen – erwartet oder unerwartet. „Musterbeispiele“ werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。		1. Auswahl von Gesprächsthemen und -situationen für das Sommersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer. 2.-14. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern und eventuelle Vorführung vor der Klasse.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden für jeden Unterricht entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung der Dialogarbeit des 1. Semesters mit Verlegung des Schwerpunkts auf die Weiterführung des Gesprächs, nachdem das erste Schweigen gebrochen ist. Dazu gehören auch Strategien zum Themawechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。		1. Auswahl der Themen für das Wintersemester unter Berücksichtigung der Wünsche und Vorschläge der Kursteilnehmer. 2.-14. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern und eventuelle Vorführung vor der Klasse.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden für jeden Unterricht entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	小林 和貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
DVD 教材『Treffpunkt Berlin. Deutsch Aktuell 1』(Horst Sturmhöfel/Wolfgang S. Kraft, EMC/Paradigm Publishing)を主な題材として、実践的なドイツ語聴きとり能力の養成を目指す。 この教材は各章ごとに様々な日常的シチュエーションを取り上げている。それぞれの場面をもとに、ディクテーションなどをしながら聴きとりの訓練を行う。様々な練習を通して、基本的な語彙を発音との関連で定着させていくことが課題である。 授業は CAL 教室で行う。なお、参加者の興味と関心に合わせて、授業では歌や放送番組などの教材も取り入れたいと考えている。 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします(それ以外でも意欲があれば受講を妨げない)。		1 オリエンテーション 2 Abschnitt 1 3 " 2 4 " 3 5 " 4 6 " 5 7 " 6 8 " 7 9 " 8 10 " 9 11 " 10 12 " 11 13 " 12 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、プリントの形で適宜配布する。		学期末試験、出席状況、授業への参加度を基準に評価する。	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	小林 和貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
DVD 教材『Treffpunkt Berlin. Deutsch Aktuell 2』(Horst Sturmhöfel/Wolfgang S. Kraft, EMC/Paradigm Publishing)を主な題材として、実践的なドイツ語聴きとり能力の養成を目指す。 この教材は各章ごとに様々な日常的シチュエーションを取り上げている。それぞれの場面をもとに、ディクテーションなどをしながら聴きとりの訓練を行う。様々な練習を通して、基本的な語彙を発音との関連で定着させていくことが課題である。 授業は CAL 教室で行う。なお、参加者の興味と関心に合わせて、授業では歌や放送番組などの教材も取り入れたいと考えている。 既習クラス+未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします(それ以外でも意欲があれば受講を妨げない)。		1 オリエンテーション 2 Abschnitt 13 3 " 14 4 " 15 5 " 16 6 " 17 7 " 18 8 " 19 9 " 20 10 " 21 11 " 22 12 " 23 13 " 24 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、プリントの形で適宜配布する。		学期末試験、出席状況、授業への参加度を基準に評価する。	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	前田 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
CAL 教室にて、主に DVD 教材を用いて授業を行ないます。教材はシリーズごとに様々な場面設定がなされており、それに応じた言い回しやイントネーションを学ぶことができます。授業ではそれらの聴き取りや書き取り、さらにはパターン練習を行います。それによって、リスニングを中心とした基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。		1. オリエンテーション 2. Folge 1 3. " 4. Folge 2 5. " 6. Folge 3 7. " 8. Folge 4 9. " 10. " 11. Folge 5 12. " 13. " 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Freunde in Deutschland, EMC Publishing, 2010 授業時に同テキストのコピー、または必要なプリントを配布します。		期末定期試験のほか、出席や課題の提出状況などを加味して、総合的に評価します。	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	前田 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
CAL 教室にて、主に DVD 教材を用いて授業を行ないます。教材はシリーズごとに様々な場面設定がなされており、それに応じた言い回しやイントネーションを学ぶことができます。授業ではそれらの聴き取りや書き取り、さらにはパターン練習を行います。それによって、リスニングを中心とした基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします（それ以外の学生も受講可）。		1. オリエンテーション 2. Folge 6 3. " 4. Folge 7 5. " 6. Folge 8 7. " 8. Folge 9 9. " 10. " 11. Folge 10 12. " 13. " 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Freunde in Deutschland, EMC Publishing, 2010 授業時に同テキストのコピー、または必要なプリントを配布します。		期末定期試験のほか、出席や課題の提出状況などを加味して、総合的に評価します。	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This elective course is offered to students in the German Department who entered Dokkyo in 2009 and after. The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (culture, geography, and social issues) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, engaging in group discussions, writing short reports, and giving poster sessions. All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: Approximately 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (culture) Week 3: Listening passage 1 (culture), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (geography), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (geography), planning session 3 Week 6: Poster sessions, reading passage 3 (geography) Week 7: Poster sessions, listening passage 3 (geography) Week 8: Reading passage 4 (current events) Week 9: Listening passage 4 (current events) Week 10: Reading passage 5 (social issues) Week 11: Listening passage 5 (social issues) Week 12: Poster sessions, reading passage 6 (social issues) Week 13: Poster sessions, listening passage 6 (social issues) Week 14: Review and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (30%), group poster sessions (50%)	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This elective course is offered to students in the German Department who entered Dokkyo in 2009 and after. The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (history, economics, and politics) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, engaging in group discussions, writing short reports, and giving presentations (group and individual). All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: Approximately 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (history) Week 3: Listening passage 1 (history), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (history), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (history), planning session 3 Week 6: Group presentations, reading passage 3 (economics) Week 7: Group presentations, listening passage 3 (economics) Week 8: Reading passage 4 (economics) Week 9: Listening passage 4 (economics) Week 10: Reading passage 5 (politics) Week 11: Listening passage 5 (politics) Week 12: Individual presentations Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (30%), presentations (50%)	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	大重 光太郎 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第 1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。 講義概要 毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。		第 1 回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第 1 週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況および学期末試験の結果に基づいて評価します。詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）の際に説明します。	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	大重 光太郎 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第 1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。 講義概要 春学期と同様に、毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。		第 1 回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。なお、秋学期のみ受講する学生には、第 1 回の授業で履修上の注意事項等を記したプリントを配布しますので、必ず出席し、コーディネータに申し出てください。（必修授業ですので、第 1 週から出席をとります。） また、学期途中にレポートを課します。締切日までにレポートを提出しない場合、学期末試験を受験する資格を失うことになります。 ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05 年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得を目標にしました。2 年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3 年次以降の専門研究に向けて準備することを目標にします。 「知のスキル」とは、一体、何を意味するのでしょうか。いろいろなとらえ方があると思いますが、さしあたりこの授業では、以下のようなものとしてとらえていきます。 ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） 春学期は、共通テキストの輪読をもとにディスカッションやディベートを行います。また、テキストのテーマに基づき、2 回レポートを提出してもらいます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、09 年度入学者は「基礎演習 I または II」を、08 年度以前入学者は「基礎演習 I および II」を履修済みであることが条件です。		1. 授業のガイダンス 2. テーマ I：テキスト輪読とディスカッション 3. 同 4. 同 5. 同 6. 文献検索実習 7. ディスカッション/ディベート 8. テーマ II：テキスト輪読とディスカッション 9. 同 10. 同 11. 同 12. ディスカッション/ディベート 13. 中間レポートの返却と指導 14. まとめ、秋学期計画	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを 1 回でも出さなかったり、5 回以上欠席すると単位は認めません。	

05 年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、おもにグループでの共同研究やディスカッション、ディベートなどを通じて、「知のスキル」を高めることを目的とします。 教員と学生の相談のうえ、ドイツ語圏に関係するテーマを設定し、グループごとに調査し発表します。秋学期中、一人 2 回ずつ研究発表を行います。また、発表をまとめたレポートを 2 回提出してもらいます。3 年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、09 年度入学者は「基礎演習 I または II」を、08 年度以前入学者は「基礎演習 I および II」を履修済みであることが条件です。		1. 授業のガイダンス、春学期末レポート返却・指導 2. グループ研究①に向けたグループ別作業 3. グループ研究① 4. 同 5. 同 6. 同 7. 同 8. グループ研究②に向けたグループ別作業 9. グループ研究② 10. 同 11. 同 12. 同 13. 同 中間レポートの返却と指導 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを 1 回でも出さなかったり、5 回以上欠席すると単位は認めません。	

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語 V 総合ドイツ語 IIIa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もドイツ語で書かれており、授業はすべてドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 1 2. " 3. Lektion 2 4. " 5. Lektion 3 6. " 7. Lektion 4 8. " 9. Lektion 5 10. " 11. Lektion 6 12. " 13. Lektion 7 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 5</i> (既習クラスは別教材です。)		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 V の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VI へ進めません。	

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語 VI 総合ドイツ語 IIIb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。		1. Lektion 8 2. " 3. Lektion 9 4. " 5. Lektion 10 6. " 7. Lektion 11 8. " 9. Lektion 12 10. " 11. Lektion 13 12. " 13. Lektion 14 14. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Schritte international 6</i> (既習クラスは別教材です。)		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(時事) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem UNTERRICHTSSPRACHE IST DEUTSCH!		1. Vorbesprechung, Unterrichtsmaterial 2. Begriffsklärung: Staat-Volk-Nation 3. : Bündnis, Staatenbund 4. : Bundesstaat, Zentralstaat 5. Geografie Deutschlands 6. Geografie Europas 7. Ursprung von “deutsch” 8. Nationalsymbole allgemein am Beispiel Japans 9. Staatssymbole Deutschlands 10. Verfassung allgemein 11. Verfassung (Grundgesetz) Deutschlands 12. Staatliche Grundprinzipien I 13. Staatliche Grundprinzipien II 14. Zusammenfassung, Fragestunde	
		評価方法	
Publikationen der Bundeszentrale für politische Bildung, „Tatsachen über Deutschland“ Material wird zu jedem Thema in Kopien verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive und selbständige Mitarbeit, Abschlusstest am Semesterende	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(時事) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem UNTERRICHTSSPRACHE IST DEUTSCH!		1. Republik – Monarchie 2. Parlamentarische Demokratie 3. Rechtsstaat – Sozialstaat 4. Föderalismus 5. Deutsche Einheitsbestrebungen I (historischer Abriss der letzten 200 Jahre) 6. Deutsche Einheitsbestrebungen II 7. Staatsorgane I: Legislative (Bundestag) 8. Staatsorgane II: Exekutive (Bundesregierung) 9. Staatsorgane III: Judikative (Bundesgerichte) 10. Staatsorgane IV: Bundesrat 11. Staatsorgane V: Bundespräsident 12. Gewaltenteilung horizontal – vertikal 13. Gesetzgebungskompetenzen des Bundes und der Länder 14. Zusammenfassung, Fragestunde	
テキスト、参考文献		評価方法	
Publikationen der Bundeszentrale für politische Bildung, „Tatsachen über Deutschland“ Material wird zu jedem Thema in Kopien verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive und selbständige Mitarbeit, Abschlusstest am Semesterende	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs soll das Hörverstehen geschult werden. Aus dem Internet werden aktuelle Kurzbeiträge aufgenommen und gehört. Außerdem werden zu dem Text Fragen gestellt. Danach soll über das Thema diskutiert werden. Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.		1.-14. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gehört. Danach werden Fragen beantwortet und selbst Fragen erstellt. Es folgt eine Diskussion über das Thema. Ein Diktat rundet dann die Unterrichtsstunde ab.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden gemacht		初回の授業で説明します。	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs soll das Hörverstehen geschult werden. Aus dem Internet werden aktuelle Kurzbeiträge aufgenommen und gehört. Außerdem werden zu dem Text Fragen gestellt. Danach soll über das Thema diskutiert werden. Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.		1.-14. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gehört. Danach werden Fragen beantwortet und selbst Fragen erstellt. Es folgt eine Diskussion über das Thema. Ein Diktat rundet dann die Unterrichtsstunde ab.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden gemacht		初回の授業で説明します。	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir studieren mit dem Buch "Bibelgeschichten" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio. Wir machen Übungen zum Leseverständnis und wiederholen bestimmte Punkte der Grammatik. Ab und zu singen wir Lieder, Volks- oder Kunstlieder.		Jede Stunde wollen wir zunächst einen Abschnitt auf der Kassette hören, dann im Text weiterlesen.	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Bibelgeschichten" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio		Im schriftlichen Test kommen Fragen zum Text und Grammatikübungen, im mündlichen Test hält jeder/e Student/in vor der Klasse eine kleine Rede.	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir studieren mit dem Buch "Bibelgeschichten" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio. Wir machen Übungen zum Leseverständnis und wiederholen bestimmte Punkte der Grammatik. Ab und zu singen wir Lieder, Volks- oder Kunstlieder.		Jede Stunde wollen wir zunächst einen Abschnitt auf der Kassette hören, dann im Text weiterlesen.	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Bibelgeschichten" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio		Im schriftlichen Test kommen Fragen zum Text und Grammatikübungen, im mündlichen Test hält jeder/e Student/in vor der Klasse eine kleine Rede.	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung werden aktuelle Themen zur Gesellschaft in Deutschland besprochen. Am Ende jeder Veranstaltung legen wir dabei das Thema für die nächste Woche fest. Ziel der Veranstaltung ist es, die Fähigkeiten der Konversation in der deutschen Sprache und auch Wissen über Deutschland zu vertiefen und zu aktualisieren. Wir üben Rederoutinen und Konversations- und Diskussionsstrategien.		1 Selbstvorstellung und Besprechung des Seminarablaufs 2-13 Diskussion aktueller Themen 14 Zusammenfassung und Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine Materialien notwendig		Bewertungskriterien: Mitarbeit (50%), Sprachbeherrschung (50%)	

08 年度前以 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung werden aktuelle Themen zur Gesellschaft in Deutschland besprochen. Am Ende jeder Veranstaltung legen wir dabei das Thema für die nächste Woche fest. Ziel der Veranstaltung ist es, die Fähigkeiten der Konversation in der deutschen Sprache und auch Wissen über Deutschland zu vertiefen und zu aktualisieren. Wir üben Rederoutinen und Konversations- und Diskussionsstrategien.		1 Selbstvorstellung und Besprechung des Seminarablaufs 2-13 Diskussion aktueller Themen 14 Zusammenfassung und Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine Materialien notwendig		Bewertungskriterien: Mitarbeit (50%), Sprachbeherrschung (50%)	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden wir uns mit aktuellen Themen beschäftigen (Schwerpunkt: Jugend) und herausfinden, worüber in Deutschland diskutiert wird und vor allem, wie ein Thema in den Foren/Blogs besprochen wird. Wir werden also nicht nur diverse Zeitschriftenartikel lesen, sondern in erster Linie verschiedene online-Kommentare zu den Themen vergleichen. Die Kommentare werden uns dabei behilflich sein, selbst eine Pro- und Kontra Diskussion durchzuführen.		Vorläufige Planung: In der ersten Stunde werden wir über die Themen sprechen. Jedes Thema umfasst 2/3 Seminarstunden. Dabei werden wir wie folgt vorgehen: 1. Hintergrundinformationen und Besprechung der Texte/ Blogs. 2. Pro-und Kontra Diskussion Den Abschluss des Kurses bildet eine Pro-und Kontra Diskussion zu einem nicht bekannten Thema.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die nötigen Unterlagen werden im Unterricht verteilt		・ Regelmäßige Anwesenheit/Aktive Mitarbeit ・ Zusammenfassung eines Themenkomplexes	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Semester werden wir uns ebenfalls mit aktuellen Themen (Schwerpunkt: Jugend) beschäftigen Im Gegensatz zum ersten Semester werden wir aber zuerst die Kommentare von verschiedenen Blogs/Foren lesen und anhand dieser Informationen versuchen, uns ein Bild vom Ereignis/Thema zu machen. Nach dem Lesen der (Original-) Nachricht wird eine Pro-und Kontra Diskussion durchgeführt.		Vorläufige Planung: In der ersten Stunde werden wir die Themen gemeinsam auswählen. Jedes Thema umfasst 2/3 Seminarstunden. Dabei werden wir wie folgt vorgehen: 1. Besprechung der Kommentare (Foren/Blogs) 2. Lesen der kommentierten Originalnachricht 3. Pro-und Kontra Diskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die nötigen Unterlagen werden im Unterricht verteilt		・ Regelmäßige Anwesenheit/Aktive Mitarbeit ・ Zusammenfassung eines Themenkomplexes	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	M. G. シュミット
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die Fähigkeit der Kommunikation, d. h. Gespräche zu üben und zu verbessern. Dazu werden verschiedene Ebenen der Kommunikation geübt. Aussprache, Sprachrhythmus, Intonation Dialogstrukturen und mit Sprache handeln, z. B. die eigene Meinung äußern, jemanden überreden, zustimmen, ablehnen u. a. Grammatische Strukturen: Konjunktiv für Höflichkeit und für Wünsche Wortschatz, Redemittel, Redewendungen (Idiome) Interkulturelles: Höflichkeit, Tabus etc. Verschiedene Situationen für Gespräche		Plan 1. Stunde Orientierung und erste Übungen. 2. Der weitere Plan wird nach Niveau und Interesse aufgestellt Verschiedene ganzheitliche Methoden: hören, sehen, sprechen, machen, bewegen, spielen Unterrichtsform: ganze Klasse, Partnerarbeit, Kleingruppe, Wechselübungen, Gruppenarbeit Maerialien: Texte, Bilder, CD, DVD/Video, Computer etc. Wichtig ist eine aktive Mitarbeit während des Unterrichts.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Lehrmaterialien werden im Unterricht verteilt.		Anwesenheit, Lerntagebuch, Mitarbeit im Unterricht, Kurzttests, mündliche Prüfung	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	M. G. シュミット
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die Fähigkeit der Kommunikation, d. h. Gespräche zu üben und zu verbessern. Deshalb werden verschiedene Ebenen der Kommunikation geübt: Aussprache, Sprachrhythmus, Intonation Dialogstrukturen und mit Sprache handeln, z. B. die eigene Meinung äußern, jemanden überreden, zustimmen, ablehnen u. a. Grammatische Strukturen: Konjunktiv für Höflichkeit und für Wünsche Wortschatz, Redemittel, Redewendungen (Idiome) Interkulturelles: Höflichkeit, Tabus etc. Verschiedene Situationen für Gespräche		Plan 1. Stunde Orientierung und erste Übungen. 2. Der weitere Plan wird nach Niveau und Interesse aufgestellt Verschiedene ganzheitliche Methoden: hören, sehen, sprechen, machen, bewegen, spielen Unterrichtsform: ganze Klasse, Partnerarbeit, Kleingruppe, Wechselübungen, Gruppenarbeit Maerialien: Texte, Bilder, CD, DVD/Video, Computer etc. Wichtig ist eine aktive Mitarbeit während des Unterrichts.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Lehrmaterialien werden im Unterricht verteilt.		Anwesenheit, Lerntagebuch, Mitarbeit im Unterricht, Kurzttests, mündliche Prüfung	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beginnen wir mit praktischen Dialogen zu lebensnahen Themen wie Wohnungssuche und -einrichtung sowie Kleider- und Lebensmitteleinkauf. In erster Linie soll der Wortschatz ausgebaut werden, um – ein weiterer Schwerpunkt – das Ausdrücken individuellen Geschmacks und Bedürfnisses zu erleichtern. Dabei sind die Situationen nicht immer genau so, wie man sie sich wünschen würde, und auch Flexibilität im Sprachhandeln ist gefragt. „Musterbeispiele“ werden in Form von Fotokopien oder audiovisuellen Materialien zur Verfügung gestellt.		1. Auswahl der Dialog-Themen für das Sommersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer. 2.-14. Ausführung der verschiedenen Dialogprojekte in Arbeitsgruppen von zwei oder mehr Teilnehmern pro Gruppe.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden für jeden Unterricht entweder Fotokopien ausgehändigt oder CD- bzw. DVD-Aufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.	

08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung der Dialogarbeit des ersten Semesters mit Verlegung der Themen auf kulturelle Besonderheiten im deutschsprachigen Raum. Dabei können – je nach Wunsch der Kursteilnehmer – Mode, Gesundheits- und Umweltbewusstsein, Ess-, Fahr- und Fußballfankultur und das Verhalten in einer Vielzahl von Situationen zur Sprache kommen.		2. Auswahl der Themen für das Wintersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer. 2.-14. Ausführung der verschiedenen Dialog- bzw. Referatprojekte in Arbeitsgruppen von zwei oder mehr Teilnehmern pro Gruppe.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden für jeden Unterricht entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters oder Kurzreferat.	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Studenten im 3. und 4. Studienjahr lernen in diesem Kurs, verschiedene Textsorten selbstständig auf Deutsch zu schreiben. Dabei wird auch ein bisschen Grammatik und Wortschatz wiederholt und ausgebaut. Wenn von den Studenten gewünscht, können in einigen Stunden auch Übungen für den schriftlichen Teil der ZD (oder ähnliche Prüfungen) gemacht werden.		1. Woche: Unterrichtsvorstellung und Kennenlernen 2. Woche: Arbeit mit einfachen deutschen Formularen 3. Woche: Arbeit mit einfachen deutschen Formularen, Teil 2 4. Woche: offizielles Schreiben (Briefe, Mails, etc.) 5. Woche: offizielles Schreiben (Briefe, Mails, etc.), Teil 2 6. Woche: Wiederholung und Übungen 7. Woche: Arbeit mit Zeitungsartikeln 8. Woche: Arbeit mit Zeitungsartikeln, Teil 2 9. Woche: ZD-Prüfungstraining 10. Woche: ZD-Prüfungstraining, Teil 2 11. Woche: Arbeit mit Filmszenen / Präsentationen 12. Woche: Arbeit mit Filmszenen / Präsentationen, Teil 2 13. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss 14. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現と作文 ドイツ重要動詞50』(白水社)		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters.		Fortsetzung des Sommersemesters.	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現と作文 ドイツ重要動詞50』(白水社)		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In der Aufsatzklasse werden wir uns mit dem korrekten Gebrauch von Grammatik sowie kreativem Schreiben auseinandersetzen. Einerseits sollen die Studenten zu Bildern ihre Eindrücke schreiben, andererseits wird das Nachvollziehen von grammatischen Übungen verlangt.		1 Einführung, Erklärung des Semesterablaufs, Tests etc. 2 Bildbeschreibung I 3 Grammatik I (Negationsformen) 4 Bildbeschreibung II 5 Grammatik II (Verben mit Dativ und Akkusativ) 6 Bildbeschreibung III 7 Grammatik III (Position des Verbs in HS und NS) 8 Bildbeschreibung IV 9 Grammatik IV (Konjunktiv II) 10 Bildbeschreibung V 11 Grammatik V (bestimmte und unbestimmte Artikel) 12 Bildbeschreibung VI 13 Grammatik VI (Adjektivdeklinaton) 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		・ 期末テスト ・ 出席	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In der Aufsatzklasse werden wir uns mit dem korrekten Gebrauch von Grammatik sowie kreativem Schreiben auseinandersetzen. Einerseits sollen die Studenten zu Bildern ihre Eindrücke schreiben, andererseits wird das Nachvollziehen von grammatischen Übungen verlangt.		1 Einführung, Erklärung des Semesterablaufs, Tests etc. 2 Bildbeschreibung I 3 Grammatik I (Negationsformen) 4 Bildbeschreibung II 5 Grammatik II (Verben mit Dativ und Akkusativ) 6 Bildbeschreibung III 7 Grammatik III (Position des Verbs in HS und NS) 8 Bildbeschreibung IV 9 Grammatik IV (Konjunktiv II) 10 Bildbeschreibung V 11 Grammatik V (bestimmte und unbestimmte Artikel) 12 Bildbeschreibung VI 13 Grammatik VI (Adjektivdeklinaton) 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		・ 期末テスト ・ 出席	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir werden uns verschiedenen Formen des Schreibens widmen, von einfachen persönlichen Mitteilungen über E-Mails bis hin zu offiziellen und geschäftlichen Briefen. Dabei werden wir auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern. Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch Fragen oder Wünsche der Studenten sind willkommen. Schreiben soll Spaß machen...		Der Ablauf des Semesters wird zu Beginn besprochen. Dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer. 1. Einführung 2. Kurzes schriftliches Vorstellen 3. Buch Lektion 1 und 2 4. Persönliches Schreiben 5. Buch Lektion 3-5 6. E-Mails 7. Buch Lektion 6-8 8. Kleiner Text und Lektion 9-10 9. Berichte im Präteritum 10. Lektion 11-14 11. Offizieller Brief 12. Lektion 15-17 13. Lektion 18-20 14. Gesamtzusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』 (Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

08年度以前 04年度以前	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Herbstsemester ist eigentlich die Fortsetzung des Frühlingsemesters; neue Studenten sind dennoch erwünscht, sofern sie das Buch mitbringen und die Bereitschaft, sich aktiv zu beteiligen. Wir beginnen wiederholend, aber dann fortschreitend im Aufbau.		Ich orientiere mich wieder am Durchschnittsniveau der Teilnehmer. 1. Einführung und Wiederholung 2. Wiederholungen aus dem Buch 3. Persönliche Mitteilungen 4. Bucharbeit, Lektion 21-23 5. Freies Schreiben im Perfekt 6. Buch Lektion 24-26 7. Kleiner Test und Lektion 28-29 8. E-Mails und Lektion 30-31 9. Lebensläufe 10. Aus Notizen einen Bericht machen 11. Buch Lektion 32-34 12. Auf Anzeigen antworten, Lektion 35-38 13. Lektion 39-40 und freies Material 14. Gesamtzusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』 (Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

08 年度以前	上級ドイツ語特殊演習	担当者	K. ゲーネンツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir lesen das Drehbuch zu einem deutschen Film und schreiben dazu japanische Untertitel. Wir gewinnen Kenntnisse über sprachliche Probleme einer Untertitelung und lernen die technische Ausstattung praktisch kennen. Ziel ist die Vorführung eines Films mit deutschen Untertiteln. Die Teilnehmer arbeiten in Gruppen und bereiten einzelne Szenen für die Besprechung im Unterricht vor. Im Unterricht besprechen wir schwierige Wörter und Ausdrücke und bewerten verschiedene Lösungen.		1.-2. Stunde: Vorbesprechung und Vorführung des Films 3.-11. Stunde: Untertitelung in Einzelschritten 12.-13. Stunde: Überprüfung und Korrektur der bisherigen Ergebnisse 13. Stunde: Endredaktion 14. Stunde: Vorführung des Ergebnisses	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht Schriftliche Hausarbeit	

08 年度以前	中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen. Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern. Berücksichtigung individueller Interessen und Bedürfnisse. Zur Auswahl stehen unter vielen anderen Möglichkeiten das Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival, Meier Helmbrecht, Gedichte von Walther von der Vogelweide, Tischzuchten, Tierbeschreibungen, Reiseberichte.		1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3.-6. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten: die ritterlich-höfische Welt (Wolfram von Eschenbach <i>Parzival</i>, Hartmann von Aue <i>Iwein</i>, <i>Erek</i>) 7.-9. 3 bis 4 Unterrichtseinheiten: die bäuerliche Welt (Wernher der Gartenaere <i>Helmbrecht</i>, Wittenwiler <i>Der Ring</i>) 10.-12. 3 Unterrichtseinheiten Heldenepik (<i>Nibelungenlied</i>) 13.-14. 2 bis 3 Unterrichtseinheiten Minnesang (Walther von der Vogelweide)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters	

08 年度以前	中世ドイツ語 II	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen. Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern. Berücksichtigung individueller Interessen und Bedürfnisse. Zur Auswahl stehen unter vielen anderen Möglichkeiten das Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival, Meier Helmbrecht, Gedichte von Walther von der Vogelweide, Tischzuchten, Tierbeschreibungen, Reiseberichte.		1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3.-6. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten: die ritterlich-höfische Welt (Wolfram von Eschenbach <i>Parzival</i>, Hartmann von Aue <i>Iwein</i>, <i>Erek</i>) 7.-9. 3 bis 4 Unterrichtseinheiten: die bäuerliche Welt (Wernher der Gartenaere <i>Helmbrecht</i>, Wittenwiler <i>Der Ring</i>) 10.-12. 3 Unterrichtseinheiten Heldenepik (<i>Nibelungenlied</i>) 13.-14. 2 bis 3 Unterrichtseinheiten Minnesang (Walther von der Vogelweide)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters	

08 年度以前	通訳特殊演習 I	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
★ 定員 20 名。第一回授業で選抜試験を実施するので、必ず参加すること。 ★ おおよそ、Zertifikat Deutsch、「独検」2 級、TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。 通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニング方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語能力全体の向上を目指す。		第一回授業で指示する。 基本的な練習として： ・ シャドウイング（「影」のようになぞる練習） ・ エコー・トレーニング（「こだま」のように反復する練習） ・ クイック・レスポンス（短文、句の日独／独日翻訳） ・ 早口言葉などを取り入れて、基礎能力向上を目指す。 さらに、先輩が学生時代に通訳として実際に活躍した（現在もしている）「日独スポーツ同時交流」などでのアテンダンス通訳の基本的なシーン、あいさつなどのテキストをもとに実践的な練習をする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に適宜指示する。		授業時の課題や、学期末などのレポートをもとにする。欠席／遅刻が多い場合には評価の対象としない。	

08 年度以前	通訳特殊演習 II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
★ 定員 20 名。「通訳特殊演習 I」の履修が前提となる。 ★ おおよそ、Zertifikat Deutsch、「独検」2 級、TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。 通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語全体の向上を目指す。		第一回授業で指示する。基本的には「基礎練習」と「基本的シーンの練習」の二部構成とする。 春学期同様の基本的な練習のほかに、 ・ Bildbeschreibung ・ Textinterpretation など、言語技術向上を目指す練習も取り入れる。 秋学期にはドイツ首相などのあいさつ、獨協でのドイツ大使のあいさつなどを取り入れて、よりレベルの高い通訳の練習をする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に適宜指示する。		授業時の課題や、学期末などのレポートをもとにする。欠席／遅刻が多い場合には評価の対象としない。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 a ドイツ語学概論 I	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。 講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。春学期では、言語についての一般的な問題を取り上げます。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思いますが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたいと思っています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。		1. ことばの不思議-導入と年間計画 2. ことばの不思議 (1) 3. ことばの不思議 (2) 4. ことばの不思議 (2) 5. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1) 6. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2) 7. それってドイツ語-ドイツ語の方言 8. 文法のお話 (1)-品詞ってなに 9. 文法のお話 (2)-木を見て森を見ず 10. 文法のお話 (3)-パンドラの箱 11. 辞書は大きなおもちゃ箱 12. 言語というブラックホール 13. まとめ 14. 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 b ドイツ語学概論 II	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。 講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。秋学期には範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたいと考えています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。		1. 言語は怪人二十面相 2. 言語学の歴史 3. 音の世界-音声学・音韻論 4. 形にこだわって-形態論 5. 文の組み立てについて-統語論 6. 意味って何 (1)-意味論 7. 意味って何 (2)-意味論 8. 言語は生き物 (1)-実用論 9. 言語は生き物 (2)-実用論 10. 言語と社会-社会言語学 11. 言語と心-言語心理学あるいは認知 12. 言語研究への道 13. まとめ 14. 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 a ドイツ文学概論 I	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期では、「文学」って何？という問題から授業を始めます。 「読書感想文」を書かされて辟易（へきえき）しませんでしたか？ 「国語」の入試で解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか？ 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか？ こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。 続いて、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を中心に据えて、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えていきます。 また、文学と思想（哲学・宗教など）のつながりも、必要に応じて考えていきます。		詳しくは第1回の授業で指示します。 大枠としては次の点を検討します： 1. 文学をめぐって ・「文学」って何？ ・「文学研究」は何のために？ ・「作者」は死んだ？ ・「読者」の可能性 ・「本」は滅ぶのか？ 2. さまざまなジャンル ・「単純な語りの形式」（メルヒェン・寓話・伝説、etc.） ・「叙情詩」（詩なしには生きられない？） ・「劇」（ドラマチックな人生？） ・「散文」（近代の申し子）	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。		出席（4回以上の欠席は評価の対象としません）および期末試験によります。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 b ドイツ文学概論 II	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では、主に2つの目標にそって授業を行います。 1) 私たちの日常生活と「文学」の関係を考える。 「文学」は本や教科書、図書館といったかたちで、私たちの「外」にあるだけではありません。日常の暮らしの「中」にあって、私たちの考え方や行動パターンに影響を与えているのです。そんな「よそゆき」ではない文学を考えてみます。 2) ドイツ文学と思想のアウトラインを知る。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？ 18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想（哲学・宗教など）が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。		詳しくは第1回の授業で指示します。 大枠としては次の点を検討します： 1. 私たちの中の「文学」 ・メディアとしての文学 ・文学とさまざまなメディア ・文学をめぐる諸制度（文学部、図書館、etc.） 2. ドイツ語圏の文学・思想 ・近代的な恋愛のはじまり（『ウェルテル』） ・ロマン派というアヴァンギャルド（前衛派） ・文学が文学だった頃（19世紀） ・見えない世界との出会い（20世紀前半） ・ナチズムと文学 ・アウシュヴィッツの後に詩を書くことは野蛮？ など	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：H・シュラップナー『ドイツ文学の短い歴史』和泉、安川訳、同学社、2008年		出席（4回以上の欠席は評価の対象としません）、レポートおよび期末試験によります。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の言語 a ドイツ語学各論 I	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
「ドイツ語圏の言語」とはつまりドイツ語の事です（普通に考えれば当たり前の事です！）。ドイツ語でも幾つかのレベルが考えられますが、この授業ではごく日常的なレベルのドイツ語をテーマとします。つまり、ごく普通の人がごく普通のシチュエーションで話すドイツ語です。使われる単語も文法もごく簡単なものです。同時にいわゆる「若者言葉」ないしは「俗語」も豊富に取り入れた会話を練習したいと考えています。 毎回参考文例を示しますので、そこで使用される単語、熟語表現などを直ちに練習問題として、実戦的な会話文が使えるよう訓練するのを目的とします。毎回復習の小テストをしますし、それを集計して成績評価としますのでなかなか大変な授業だと思います。ドイツ語に興味のない人には続けられない授業だと思いますので、履修登録は慎重にお願いします。（と言うか、ドイツ語に興味のない人はお断りします。）		1. 導入 2. 文例 1 とその練習 3. 文例 1 の小テスト。文例 2 4. 文例 2 の小テスト。文例 3 5. 文例 3 の小テスト。文例 4 6. 文例 4 の小テスト。文例 5 7. 文例 5 の小テスト。文例 6 8. 文例 6 の小テスト。文例 7 9. 文例 7 の小テスト。文例 8 10. 文例 8 の小テスト。文例 9 11. 文例 9 の小テスト。文例 10 12. 文例 10 の小テスト。文例 11 13. 文例 11 の小テスト。文例 12 14. 文例 12 の小テスト。文例 13	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計して、学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の言語 b ドイツ語学各論 II	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
「ドイツ語圏の言語」とはつまりドイツ語の事です（普通に考えれば当たり前の事です！）。ドイツ語でも幾つかのレベルが考えられますが、この授業ではごく日常的なレベルのドイツ語をテーマとします。つまり、ごく普通の人がごく普通のシチュエーションで話すドイツ語です。使われる単語も文法もごく簡単なものです。同時にいわゆる「若者言葉」ないしは「俗語」も豊富に取り入れた会話を練習したいと考えています。 毎回参考文例を示しますので、そこで使用される単語、熟語表現などを直ちに練習問題として、実戦的な会話文が使えるよう訓練するのを目的とします。毎回復習の小テストをしますし、それを集計して成績評価としますのでなかなか大変な授業だと思います。ドイツ語に興味のない人には続けられない授業だと思いますので、履修登録は慎重にお願いします。（と言うか、ドイツ語に興味のない人はお断りします。）		1. 導入 2. 文例 1 とその練習 3. 文例 1 の小テスト。文例 2 4. 文例 2 の小テスト。文例 3 5. 文例 3 の小テスト。文例 4 6. 文例 4 の小テスト。文例 5 7. 文例 5 の小テスト。文例 6 8. 文例 6 の小テスト。文例 7 9. 文例 7 の小テスト。文例 8 10. 文例 8 の小テスト。文例 9 11. 文例 9 の小テスト。文例 10 12. 文例 10 の小テスト。文例 11 13. 文例 11 の小テスト。文例 12	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計して、学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 a ドイツ文学各論 I	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ドイツ文学に親しみ、作品を通してドイツの民族性、精神性を理解する。 講義概要： 「ドイツの短編小説」 叙事文学には Roman(長編小説)と Novelle (短編小説)の形式がある。両者の違いは単に「長い」「短い」だけにとどまらない。語られる内容、語る形式が根本的に異なる。Novelle の語源となったラテン語の novella は法律用語で、既存の法典(ユスティニアヌス法典)に付け加えられた「新しいもの」、つまり補遺とか増補の意味であった。それがイタリア・ルネサンスにおいてはじめて固有の文学ジャンルとなり、ロマン文学に広まった。ドイツに本格的な短編小説が登場するのは18世紀末のことで、以来ロマンス語系諸国とは異なった独自の発展を遂げる。 本講では Novelle の歴史を概観し、Roman 形式との比較考察から Novelle とは何かを理解した上で、ドイツ文学における代表的な作家の作品を鑑賞する。		最初に(第 1～3 回)短篇小説の歴史、形式について概説する。 そのあと (第 4～13 回)、個々の作品の鑑賞に移るが、その際、進み具合によって次の作家から選んで作品を取り上げる予定 (原則として邦訳を用いる)。 ゲーテ シラー ブレンターノ ホフマン アイヒェンドルフ シュトルム ケラー ハウプトマン ハイム シュニッツラー ホフマンスタール カフカ ムージル 第 14 回 予備 (まとめ)	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にプリントを配布。		平常点 (出席) に、レポートの結果を加味して総合的に判断する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 b ドイツ文学各論 II	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずるが、進捗状況によっては変更もあり得る。そのばあいには、ゲーテとシラー、クライストと E.T.A.ホフマンの生涯と作品を取り上げる予定。		左記参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にプリントを配布。		春学期に準ずる。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 a ドイツの思想 I	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は、主にドイツ語圏の哲学書、文学作品、映像資料などを素材にして、右記各テーマについて考える（大げさに言えば、「哲学する」）ことを目的とする。 *詳しい講義内容は、第1回オリエンテーションで説明する。		1. オリエンテーション：授業内容についての詳しい説明 2.～13. 以下のようなテーマについて、それぞれ数回ずつ講義する テーマ： 人間とは？ 魂とは？ 美とは？ 善とは？ 真理とは？ 神とは？ 自由とは？ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は、毎回授業時にコピーで配布する。また、参考文献については、必要に応じてその都度指示する。		毎回授業の最後に、授業に関する意見・感想、質問などを書いていただく。そのリアクション・ペーパーの内容（出欠チェックを兼ねる、20%）と、学期末に行う筆記試験の結果（80%）を総合して評価する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 b ドイツの思想 II	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、18世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カント（Immanuel Kant, 1724-1804）に関して、右記のような各テーマで講義する。 *詳しい講義内容は、第1回オリエンテーションで説明する。		1. オリエンテーション：授業内容についての詳しい説明 2.～13. 以下のようなテーマについて、それぞれ数回ずつ講義する テーマ： カントの生涯と主な著作 カントの周辺の哲学者たち 「啓蒙」の問題 「人格」の問題 獨協とカント 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は、毎回授業時にコピーで配布する。また、参考文献については、必要に応じてその都度指示する。		毎回授業の最後に、授業に関する意見・感想、質問などを書いていただく。そのリアクション・ペーパーの内容（出欠チェックを兼ねる、20%）と、学期末に行う筆記試験の結果（80%）を総合して評価する。	

08 年度以前	ドイツ語学・文学特殊講義【火 3】	担当者	K. ゲーネンツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir übersetzen Beispiele für verschiedene Textsorten (z.B. Patentschrift, Gerichtsurteil, Prosa, Lyrik) und besprechen, was die Übersetzungswissenschaftler dazu schreiben. Wir lernen auch, was die Merkmale deutscher Fachsprache sind. Zu den Texten werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt		1. – 6. Stunde: Lektüre und Diskussion von 2- 3 gemeinsprachlichen Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.- 12. Stunde: Lektüre und Diskussion von 2- 3 fachsprachlichen Texten 13. Stunde: Rückblick und Zusammenfassung 14. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht und Hausaufgaben, 2 Tests	

08 年度以前	ドイツ語学・文学特殊講義【水 3】	担当者	K. ゲーネンツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir übersetzen und besprechen kurze Texte aus Tageszeitungen, Zeitschriften oder dem Internet zu aktuellen Themen aus Deutschland (z.B. Gesellschaft, Politik, Kultur). Die Übersetzung der Texte wird von den Teilnehmern in kleinen Gruppen vorbereitet und im Unterricht vorgestellt. Wir besprechen schwierige Wörter und Ausdrücke gemeinsam und erweitern so unseren Wortschatz und die Kenntnisse über Deutschland.		1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.- 13. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶにあたって、読む、聴く、話すと並んで、より困難と思えるのが「書く」という行為である。この授業では文法的に正しいドイツ語文を書くことはもちろんだが、さらにドイツ語文として、きれいな、自分の意図に合った適切な文を書くには、どのような点に注意すればよいかを、Duden の Der Text の章を読みつつ、これを考え、日本語文との比較を試みる。参加した学生諸君が幾分なりともドイツ語で悪文とは何か、それを避けるにはどうすればよいか考える機会を提供したい。 授業の概要：Duden の下記のテキストを読みつつ、文章、文体、長短、情報のつながり方、文と文との関係、修飾語などについてドイツ語文をまとめる上での要領を概観し、日本語と比べてどのような点が類似しており、どこが異なるのか検討する。		第1回：Texte schreiben nach Mustern 第2回：Die Teil des Textes 第3回：Die Überschrift:Informieren und Anreizen 第4回：Die Überschrift:Informieren und Anreizen 第5回：Einleitung und Schluss 第6回：Die Rahmen des Textes 第7回：Der Briefanfang Persönlich oder sachlich 第8回：Die Einleitung:Informieren und Orientieren 第9回：Die Einleitung:Informieren und Orientieren 第10回：Der Anhänger:Leseanreiz bieten 第11回：Der Anhänger:Leseanreiz bieten 第12回：Der Schluss:Den Anspruch schaffen 第13回：Der Schluss:Den Anspruch schaffen 第14回：Der Hauptteil:Sachverhalte darstellen	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： Ulrich Püschel:Wie schreibt man gutes Deutsch? Mannheim 2000 参考書： マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書 18（岩波書店）1988 年 大津栄一郎『英語の感覚』岩波新書 278（岩波書店）1993 年 他		授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶにあたって、読む、聴く、話すと並んで、より困難と思えるのが「書く」という行為である。この授業では文法的に正しいドイツ語文を書くことはもちろんだが、さらにドイツ語文として、きれいな、自分の意図に合った適切な文を書くには、どのような点に注意すればよいかを、Duden の Der Text の章を読みつつ、これを考え、日本語文との比較を試みる。参加した学生諸君が幾分なりともドイツ語で良い分、悪い文とは何か、それを避けるにはどうすればよいか考える機会を提供したい。 授業の概要：Duden の下記のテキストを読みつつ、適切な表現をめぐる語の選択の問題、メタファー、強調、婉曲表現、修飾語などについてドイツ語でどのような形が望ましいのかを考えつつ、日本語と比べてどのような点が類似しており、どこが異なるのか検討する。		第1回：An Ereignissen teilhaben lassen 第2回：Gegenstaende und Vorsgaenge darstellen 第3回：Strittige Fragen klären 第4回：Unklares verständlich machen 第5回：Unklares verständlich machen 第6回：Der Textbau :Die Folgerichtigkeit der Teile 第7回：Die Textorganisation:Ordnungschaffen im Text 第8回：Die Textorganisation:Ordnungschaffen im Text 第9回：Die Textorganisation:Ordnungschaffen im Text 第10回：Strukturieren 第11回：Strukturieren 第12回：Strukturieren 第13回：Von der Ausführlichkeit 第14回：Von der Ausführlichkeit	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： Ulrich Püschel:Wie schreibt man gutes Deutsch? Mannheim 2000 参考書： マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書 18（岩波書店）1988 年 大津栄一郎『英語の感覚』岩波新書 278（岩波書店）1993 年 他		授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen...). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes		1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Zusammenfassung zum bisher Gelesenen 8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Abschlusstest	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen...). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes		1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Zusammenfassung zum bisher Gelesenen 8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Abschlusstest	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit dem Thema Sprachminderheiten. Anhand von kurzen Texten üben wir Lesestrategien und setzen uns mit historischen, politischen und gesellschaftlichen Aspekten dieses Themas auseinander. Dabei stehen vor allem Sprachprobleme im Mittelpunkt unserer Diskussionen.		1 Selbstvorstellung, Einführung 2-6 Besprechung von allgemeinen Texten zum Thema 7 Referate 8-12 Texte zu Beispielen 13 Test 14 Zusammenfassung der Ergebnisse	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden im Kurs ausgegeben.		Referat und Mitarbeit (50%), Test (50%)	

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit dem Thema Sprachminderheiten. Anhand von kurzen Texten üben wir Lesestrategien und setzen uns mit historischen, politischen und gesellschaftlichen Aspekten dieses Themas auseinander. Dabei stehen vor allem Sprachprobleme im Mittelpunkt unserer Diskussionen.		1 Selbstvorstellung, Einführung 2-6 Besprechung von allgemeinen Texten zum Thema 7 Referate 8-12 Texte zu Beispielen 13 Test 14 Zusammenfassung der Ergebnisse	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden im Kurs ausgegeben.		Referat und Mitarbeit (50%), Test (50%)	

08 年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 内容理解もさることながら、何よりもまずドイツ語文章の読解力を身につけることを主眼とする。毎回指名して発表してもらいが、自分の担当部分のみならず、全体に渡って受講者の積極的、意欲的な取り組みを期待したい。 講義概要 Thomas Mann からツルゲーネフとならぶ短篇小説の完成者とまで賞賛されたドイツ・レアリズムの作家 Theodor Storm(1817-1888)の中期を代表する半自伝的小説 Viola tricolor (三色すみれ:1872/73) を精読する。タイトルはラテン語だが、ドイツ語でいえば Stiefmütterchen (三色すみれ; 継母の義)。このタイトルが示すように、亡くなった先妻の遺児ネーギーと後妻に迎えられた継母のイーネス(作者の古くからの愛人がモデルになっている)の、いわゆるなさぬ仲が織りなす心理的葛藤をドラマの手法で感動的に描いている。三色すみれはまた上記二者に、あとから生まれたイーネスの実の娘を加えた三人をも指している。		全編 30 ページに及ぶので、毎回少なくとも 2 ペーを目標に読み継いでいく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回にプリントを配布する。		平常点(出席+発表)に、小テストの結果を加味して総合的に判断する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる。 ただし取り上げる素材は同じ作者の初期の心理小説 Angelika (1855)。上記作品と同じく作者の古い愛人をモデルとするこの小説は冒頭から複雑な心理分析の世界へ読者を導き、個人対社会の避けがたい深刻な関係から生まれる人間の悲劇を提示する。		春学期に準ずる。 左記作品はほぼ 20 ページなので、順調に運んだばあい、さらに別の素材を取り上げる予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回にプリントを配布する。		春学期に準ずる。	

08年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
S.FREUD(1856-1939) の文学論を読みます。 心理学の立場から SHAKSPEARE の”Kaufmann von Venedig”および”König Lear”における「選択のモチーフ」が、読み解かれます。短い論ながら、古代神話やグリム童話などを手がかりに、女性に対する男性の関係が浮かび上がってきます。 例にあげられた神話や童話についても検討しますが、講読の時間ですので、原文読解の技法を身につけましょう。		1. ガイダンス 2. ～14. 順次読み進めます。 15. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
S. FREUD 『小筐選び』(同学社)		定期試験 60%、通常授業における発表や貢献度を 40% とし評価します。	

08年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
精読によって、読解の技法を身につけてもらいます。 S.FREUD の弟子であったものの、袂を分かった C.G. JUNG(1876-1961) の文学論 “Psychologie und Literatur” を読みます。Einleitung, Werk, Dichter の3部から成ります。 FREUD との立場の違いは？そしてその行方は？ 興味深い文学案内にもなっているのは、思いがけない余得というべきでしょう。 まず専門用語や基本語彙を押さえつつ、論の展開をたどります。ちなみに精神分析など、理解を助ける親切的な註が多く付されています。		1. ガイダンス 2. ～14. Einleitung から順次テキストを読み進めます。 15. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ユング・文学と心理学』(郁文堂)		定期試験 60%、通常授業における発表や貢献度を 40% とし評価します。	

08年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
一種の「民衆劇(Volksstück)」をテキストに選び、民間で日常的に使われる方言が織り込まれた文学作品を読んでみよう。それにはオーストリア民衆劇作家ヨハン・ネストロイ(Johann Nestroy)の喜劇作品が参考になる。彼は主として魔法劇、パロディ、茶番劇などを得意分野とするが、それらには痛烈な社会風刺も盛り込まれる。しかしあくまで観客を楽しませるのが彼の中心課題だった。ユーモア精神や笑いが大事だった。彼の笑いは、様々な形の言語を駆使して人間や社会体制の偽善を暴き、既存の価値観の根底を揺るがす効果を持つ。この授業では『お守り』あるいは『厄除け』とも訳される”Der Talisman”を取り上げる。『お守り』とはこの作品の場合「髪(カツラ)」を意味し、髪の色が変わるたびに相手の態度が変わるという滑稽な風刺性をはらむ。		この授業は「ドイツ語講読」と銘打たれ、ドイツ語を読む実力養成が第一目的とされるため、原文を受講者諸君に順次和訳してもらいながら、そこに含まれている意味をみんな考えていく。(毎時間の授業終了時に感想や質問を書いてもらう予定。) この作品は「戯曲(Drama)」である関係上、特に「せりふ」と「ト書き」から成り立っている。したがって舞台上での上演を前提とする。また題名には「歌つき(mit Gesang)」とも断ってある。そのため授業中に AV 機器も使い、名演技を味わいながらウィーン方言を学ぶことにもなる。テキストは会話を中心とした「生きたドイツ語」を基本としているので、最初は苦勞しても慣れると読みやすいはずである。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとなる”Der Talisman”は、コピーして配布する予定。参考文献は講義中に指示する。		普段の授業中の発表や期末のテストなどにより総合的評価をする。	

08年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じるが、秋学期のみの受講者にも不利にならないよう配慮する。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。場合によってテキストを変更する可能性もある。		春学期に準じる。	

08 年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
今年生誕 250 周年を迎えるヨハン・ペーター・ヘーベル (Johann Peter Hebel,1760—1826) の『ラインの家の友の 珠 玉 集 (<i>Schatzkästlein des rheinischen Hausfreundes</i>,1811) から、数編を読みます。この作品には、<i>Kalendergeschichten</i> (「暦物語・暦話」と呼ばれる、民衆教化目的で書かれた「面白くてためになる(?)」小噺が 300 点ほど集められています。その中には、後の批評家から「ドイツ散文の至宝」とまで絶賛され、またドイツの国語教科書に採用されているものもあります。今学期は著名なものを中心に、丁寧に読んでいきます。まずは文学作品を素材に、基本的な読解技術を習得することが今学期の目的です。 授業中に行うのは、テキストの精読です。全員に毎回 1 ページ半から 2 ページ分の予習範囲を指定します。訳読の分担は行いませんので、毎回全員が予習をして授業に臨んでください。		第 1 回ガイダンス —<i>Kalendergeschichten</i> とは？ 第 2 回「序文」を読む 第 3 回～第 14 回テキスト講読及び授業内試験 第 1 回の授業で、受講者と相談の上授業計画を決定します。受講希望者は必ず初回及び第 2 回の授業に出席してください。 初回の授業に欠席した学生に対しては、原則として受講を認めません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。参考文献は授業中に適宜紹介します。毎回必ず辞書を持参してください。 推薦辞書：『独和大辞典 第 2 版』小学館		授業内試験 (3 回を予定) 7 割、授業中の課題達成度 3 割で評価します。正当な理由無く出席率が 7 割に満たない場合は評価対象外とします。定期試験は行いません。	

08 年度以前	ドイツ語講読(文学)	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、学期前半は Johann Peter Hebel: <i>Schatzkästlein des rheinischen Hausfreundes</i> (1811) から、数編を読みます。 学期後半では、E.プロッホ (1885-1977) や W.ベンヤミン (1892-1940) ら、ヘーベルを高く評価した後世の批評家たちの論説も扱いながら、彼の文体的特徴についても考えてみましょう。また受講者の状況に応じて、B.ブレヒト (1898-1956) など、後世において <i>Kalendergeschichten</i> と呼ばれる掌編を書き残した作家たちの作品にも挑戦する予定です。		原則として春学期に準じます。ただし、春学期に読んだテキストの続きを読む可能性があります。 春学期と同様、第 1 回の授業で、受講者と相談の上授業計画を決定します。受講希望者は必ず初回及び第 2 回の授業に出席してください。 初回の授業に欠席した学生に対しては、原則として受講を認めません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じます。		春学期に準じます。	

08 年度以前	ドイツ語学・文学特殊講読	担当者	K. ゲーネンツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir lesen mehrere kurze Texte über Jugendsprache und Erscheinungen des Sprachwandels im heutigen Deutschland. Welchen Einfluss nehmen Abweichungen auf die in der ganzen Gesellschaft gesprochene Sprache? Wodurch entstehen die Abweichungen? Wie gehen die Deutschen damit um? Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes		1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.- 13. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 a ドイツ文化史概論 I	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ語圏芸術・文化のルーツと特質 3 中世 4 同上 5 ルネサンス・宗教改革期 6 同上 7 三十年戦争・バロック期 8 同上 9 啓蒙主義時代 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 グリムのメルヒェン 14 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 b ドイツ文化史概論 II	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 ナチズムと芸術 11 同上 12 現代へ：新たな芸術の展開 13 同上 14 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 a ドイツの美術 I	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は大きな西洋美術史の流れの中で、ドイツ語圏の美術がどのような特質を持つのかを知ることが目標としてあります。 ドイツの美術は西洋美術史の中で主導的な立場にあった時期はごくわずかで、常にイタリア、フランス、オランダといった近隣諸国の影響を後追いする存在でした。この授業では春学期はゴシック時代の建築、彫刻、絵画を中心に、ドイツの様々な芸術作品を取り上げます。		1 講義の導入 ドイツの美術 2 フランスのゴシック建築 3 ドイツのゴシック建築（1） 4 ドイツのゴシック建築（2） 5 ドイツのゴシック建築（3） 6 フランスのゴシック彫刻 7 ドイツのゴシック彫刻（1） 8 ドイツのゴシック彫刻（2） 9 ドイツのゴシック彫刻（3） 10 初期ネーデルラント絵画の誕生 11 ドイツの 15 世紀の絵画表現（1） 12 ドイツの 15 世紀の絵画表現（2） 13 ドイツの 15 世紀の絵画表現（3） 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		評価方法：平常授業における課題（授業内に書いてもらうディスクリプション）の提出ならびに期末定期試験の結果で判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 b ドイツの美術 II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、西洋美術の大きな流れから見たドイツ美術の特質を考えます。ドイツ美術は、ドイツ・ルネサンスの創始者であるアルブレヒト・デューラー（1471・1528）の登場をもって大きく飛躍します。 秋学期はデューラーの作品を中心に様々な角度から 15 世紀のドイツ美術の様相を考えたいと思います。		1 春学期の復習 2 イタリアの肖像画 3 ドイツの肖像画 4 デューラーの肖像画（1） 5 デューラーの肖像画（2） 6 風景画の誕生 7 イタリアの風景画の発展 8 初期ネーデルラント絵画の風景表現 9 アルブレヒト・デューラーの風景画（1） 10 アルブレヒト・デューラーの風景画（2） 11 アルブレヒト・アルトドルファーの風景画 12 ドイツのドナウ派の風景表現（1） 13 ドイツのドナウ派の風景表現（2） 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		評価方法：平常授業における課題（授業内に書いてもらうディスクリプション）の提出ならびに期末定期試験の結果で判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の音楽 a ドイツの音楽 I	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。 春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品を取りあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. J. ハイドンの音楽 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. W. A. モーツァルトの声楽作品	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の音楽 b ドイツの音楽 II	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。 秋学期には、18 世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。 秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品を取りあげることが予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン（2010 年が生誕 200 周年です） 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派（マーラーは 2010 年が生誕 150 周年です） 11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏の国歌 13. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツの演劇 a ドイツの演劇 I	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ（語圏）演劇の歴史的展開の様相を社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。 2) ドイツ（語圏）演劇の特質とアクチュアリティを探究する。 3) ドイツ（語圏）演劇を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。 講義概要 ドイツ（語圏）文化のひとつの重要な核心である演劇というメディアは、それぞれの時代をどう映し、それぞれの時代においてどういう機能を果たし、またそれぞれの時代とどう切り結んできたのか。この講義では、ドイツ（語圏）演劇の果たしてきた、あるいは果たしている役割を、それぞれの時代における社会/文化の構造や動きと関連させて検証しながら、その今日的な存在意義について考えてみる。 頭の中を整理するため、一応通時的な流れをたどるが、つねに共時的でアクチュアルな視点を意識しながら話を進めたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ近代演劇以前（1）：中世の宗教劇（受難劇） 3 ドイツ近代演劇以前（2）近世の謝肉祭劇 4 ドイツ近代演劇の成立：レッシング 5 同上 6 シュトルム・ウント・ドラング期のドイツ演劇：若きゲーテ、レンツ 7 同上 8 ドイツ古典主義の演劇：ゲーテとシラー 9 同上 10 19 世紀のドイツ演劇：クライスト、ヘッベル、ビューヒナー 11 同上 12 ヴァーグナーの「楽劇」 13 世紀転換期ウィーンの演劇：ホーフマンスタール、シュニッツラー 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布する。また必要に応じて映像・音声資料も使用する。 参考文献：その都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の演劇 b ドイツの演劇 II	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ（語圏）演劇の歴史的展開の様相を社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。 2) ドイツ（語圏）演劇の特質とアクチュアリティを探究する。 3) ドイツ（語圏）演劇を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。 講義概要 ドイツ（語圏）文化のひとつの重要な核心である演劇というメディアは、それぞれの時代をどう映し、それぞれの時代においてどういう機能を果たし、またそれぞれの時代とどう切り結んできたのか。この講義では、ドイツ（語圏）演劇の果たしてきた、あるいは果たしている役割を、それぞれの時代における社会/文化の構造や動きと関連させて検証しながら、その今日的な存在意義について考えてみる。 頭の中を整理するため、一応通時的な流れをたどるが、つねに共時的でアクチュアルな視点を意識しながら話を進めたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 「自然主義文学」運動とドイツ演劇：G. ハウプトマン 3 ドイツ表現主義の演劇 4 「演劇」の変革：B. プレヒト 5 同上 6 同上 7 同上 8 「1968 年＝政治の季節」とドイツ演劇：P. ハントケ、P. ヴァイス、M. ヴァルザー 9 同上 10 「ポストドラマ演劇」：H. ミュラー 11 同上 12 現代ドイツ（語圏）演劇の諸相：B. シュトラウス、E. イェリネク 13 同上（あるいは P. パウシュのタンツテアター） 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布する。また必要に応じて映像・音声資料も使用する。 参考文献：その都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 a ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じ伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により早く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近では個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思い浮かばない人もいるかもしれませんが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？（１） - 文化とは何か？（２） - コミュニケーションとその手段（１） - コミュニケーションとその手段（２） - 科学・技術の発達と文化への影響（１） - 科学・技術の発達と文化への影響（２） 「実物」文化 - 記録文化と記録・通信メディア - 絵画から映画へ - 音楽の宗教・芸術から大衆文化への変遷 - 漫画からアニメーションへ - LDからDVDへ 「ネット動画」など、狭義のメディア文化 - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容が変わったり、順序がずれたりするかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 b ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じ伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により早く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近では個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思い浮かばない人もいるかもしれませんが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？ - コミュニケーションとその手段 - 科学・技術の発達と文化への影響 - 実物文化と記録文化 - 記録・通信手段のメディアの発達 - 音楽の大衆化 - 静止画から動画へ - 演劇からラジオドラマへ - 歌劇・楽劇からミュージカルへ - 無声映画からトーキーへ - 映画からアニメーションへ - ドイツ映画 - ドイツ語のアニメーション - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容が変わったり、順序がずれたりするかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
『トリスタンとイゾルデ』を読む (講義目的) 「トリスタンとイゾルデ」の話は、古くケルト民族の伝説に由来し、中世よりヨーロッパに広く伝播している、美と愛と死を神秘的に結合させた悲恋物語である。これを読み、中世ヨーロッパの思想・伝統・慣習等への導入を図る。 (講義概要) ドイツ語圏における原典としては、中世の詩人 Gottfried von Straßburg による宮廷叙事詩 (1210 年頃) が最も重要であるが、中世ドイツ語によって書かれているので、それを現代ドイツ語にリライトした下記のテキストを授業では用いる。 (参考文献) 長大な物語が背景となり、下記のテキストだけでは理解が難しい部分もあるので、以下の原典その他を参照すること。 《原典翻訳》ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタンとイゾルデ』石川敬三訳、郁文堂 《楽劇台本》リヒャルト・ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』ワーグナー協会監修、白水社 《フランス文学》ベディエ編『トリスタン・イゾルデ物語』佐藤輝夫訳、岩波文庫		1 導入、Riwalin und Blanscheflur 2 Tristans Kindheit / Die Pilger / Am Königshof 3 Ritter Tristan / Heimkehr und Rache / Morold 4 Tantris / Die Brautfahrt / Der Drachenkampf 5 Der betrügerische Truchsess / Die Entdeckung 6 Enthüllte Lüge / Der Liebestrank / Die Liebe 8 Messing statt Gold / Die böse Königin 9 Rotte und Harfe / Marjodo / Der Zwerg Melot 10 Das Gottesurteil / Die Liebesgrotte / Entdeckung und Heimkehr 11 Abschied / Isolde Weißhand 12 Heirat / Urlaub von Arundel 13 Erneuerte Liebe / Verleumdung 14 Der Narr / Verwundung / Rose und Rebe	
テキスト、参考文献		評価方法	
Günter de Bruyn: Tristan und Isolde. Fischer Taschenbuch 2004		選択科目であるので、評価は厳正に行う。出席、授業中の分担、授業時間内と定期試験期間の 2 回の試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
『トリスタンとイゾルデ』を読む (講義目的) Gottfried von Straßburg の『トリスタンとイゾルデ』は、中世文学の中でも第一級の恋愛文学であり、後代に大きな影響を及ぼしている。ことに近代においてはリヒャルト・ワーグナーがこれをもとに楽劇『トリスタンとイゾルデ』(Richard Wagner: "Tristan und Isolde" 1865 年初演) を作曲しており、世界中で上演されている。絶対的な恋愛賛美と当時の騎士道道徳との矛盾がそこでどのように扱われているかを考える。 (講義概要) ワーグナーの楽劇のリブレットから抜粋で読む。楽劇(=オペラ)のリブレット(=台本)であるので、韻文(=詩文)であり難解であるので十分な学習と知識を前提とする。 (参考文献) 春学期に受講し、物語の全体を理解していることを前提とする。秋学期から受講する場合は、前提の知識として、原典の翻訳をはじめ、以下のものを読んでおくこと。 《原典翻訳》ゴットフリート『トリスタンとイゾルデ』石川敬三訳、郁文堂 《フランス文学》ベディエ編『トリスタン・イゾルデ物語』佐藤輝夫訳、岩波文庫		1 導入 2 Westwärts schweift der Blick Frisch weht der Wind der Heimat zu 3 Wehe, ach wehe! Dies zu dulden! Auf! Auf! Ihr Frauen! Frisch und froh! 4 Begehrt, Herrin, was Ihr wünscht Tristan! – Isolde! – Treuloser Holder! 5 Hörst du sie noch? Isolde! Geliebte! – Tristan! Geliebter! 6 O sink hernieder, Nacht der Liebe Einsam wachend in der Nacht 7 Lausch, Geliebter! – Laß mich sterben! So starben wir, um ungetrennt 8 Rette dich, Tristan! O König, das kann ich dir nicht sagen 9 Kurwenal! He! Sag, Kurwenal! / Dünkt dich das? 10 Der einst ich trotz' / Noch ist kein Schiff zu sehn! 11 Bist du nun tot? Lebst du noch? O diese Sonne! Ha, dieser Tag! 12 Ha! Ich bin's, ich bin's, süßester Freund! Kurwenal! Hör! Ein zweites Schiff 13 Tot denn alles! / Mild und leise wie er lächelt 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richard Wagner: Tristan und Isolde. Hrsg.v. A.Csampa und D. Holland, Rowohlt 1983		選択科目であるので、評価は厳正に行う。出席、授業中の分担、授業時間内と定期試験期間の 2 回の試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

08年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
下記テキストの講読を通して、2年生までに身につけた（はずの？）文法知識を確認するとともに、ドイツ語テキストの読み方を習得することを目的とする。 また、テキストの内容に関して、みなで意見交換をする機会も持ちたいと考えている。		1. オリエンテーション：授業概要の説明など 2. 下記テキストの講読 3. 下記テキストの講読 4. 下記テキストの講読 5. 下記テキストの講読 6. 下記テキストの講読 7. 下記テキストの講読 8. 下記テキストの講読 9. 下記テキストの講読 10. 下記テキストの講読 11. 下記テキストの講読 12. 下記テキストの講読 13. 下記テキストの講読 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ミヒャエル・エンデ（子安美知子編）『エンデのメモ箱』朝日出版社、1995年		学期末に行う筆記試験（70%）と、毎回の授業への参加度（出席状況、発表担当回数、およびその発表の出来具合30%）を合わせて評価する。	

08年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、下記テキストの講読を通して、これまでに身につけた文法知識をより確かなものにするとともに、ドイツ語テキストの読み方を習得することを目的とする。		1. オリエンテーション：授業概要の説明など 2. 下記テキストの講読 3. 下記テキストの講読 4. 下記テキストの講読 5. 下記テキストの講読 6. 下記テキストの講読 7. 下記テキストの講読 8. 下記テキストの講読 9. 下記テキストの講読 10. 下記テキストの講読 11. 下記テキストの講読 12. 下記テキストの講読 13. 下記テキストの講読 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ミヒャエル・エンデ（子安美知子編）『エンデのメモ箱』朝日出版社、1995年		学期末に行う筆記試験（70%）と、毎回の授業への参加度（出席状況、発表担当回数、およびその発表の出来具合30%）を合わせて評価する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: ダンサー、女優、監督、写真家等としてワイマール共和国、第三帝国、戦後を生きたレニ・リーフェンシュタール（Leni Riefenstahl 1902-2003）が扱った作品と彼女をめぐる世界観、芸術観、倫理観等を中心に、今日まで良きにつけ悪しきにつけスポットライト（例：2007 年 3 月にドイツ第二放送 ZDF は『ヒトラーお気に入りのスター（Hitlers nützliche Idole）』の中で彼女をテーマにした特別番組を放映した。またニュルンベルク市立博物館では、ドイツ国内では一般上映が禁止されているものの、＜研究目的＞としては認められている『意志の勝利』が 2006 年以来毎年 3 月に有料上映されている。）が当てられている論議の争点を原書講読と映像を通して考察してみたい。 講義概要: 主に右記の映画作品を扱った評論を講読する。テキストとしては、Guido Knopp: Hitlers nützliche Idole - Wie Medienstars sich in den Dienst der NS-Propaganda stellten. GOLDMANN 2008 年 及び Mario Leis: Leni Riefenstahl Rowohlt Taschen Verlag 2009 年等を使用の予定。 尚、テキスト教材は担当者の方で用意する。		1. 講義の概要（受講希望者は必ず出席のこと） 2. Das blaue Licht (1) 『青の光』(1932 年) 3. Das blaue Licht (2) 4. Das blaue Licht (3) 5. Das blaue Licht (4) 6. Triumph des Willens (1) 『意志の勝利』(1935 年) 7. Triumph des Willens (2) 8. Triumph des Willens (3) 9. Triumph des Willens (4) 10. Tiefland (1) 『低地』(1940-1944 / 1954 年) 11. Tiefland (2) 12. Tiefland (3) 13. Tiefland (4) 14. 春学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献Ⅰ：瀬川裕司『美の魔力 レニ・リーフェンシュタールの真実』現代書館 2001 年 参考文献Ⅱ：スティーヴン・バック著・野中邦子訳『レニ・リーフェンシュタールの嘘と真実』清流出版 2009 年 他		担当者の訳読、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 主に俳優として活躍したハインツ・リューマン（Heinz Rühmann 1902-1994）は、今日のドイツ語圏では最も人気のある俳優（2006 年 11 月 24 日、ZDF が放送した Unsere Besten-Die größten deutschsprachigen Filmstars ではベストワン。）であり、彼のカルト的映画（Kultfilm）『熱燗ワイン』（1944 年）は毎年クリスマスを迎える待降節の時期にドイツ語圏の各地の大学等で有料上映されていて、世代を越えて大変に人気のある娯楽映画である。この映画はしかも敗戦を迎える前年に初上映されている。主役を演じたリューマンも、リーフェンシュタール同様に、ZDF の『ヒトラーお気に入りのスター』の中で 2007 年 3 月に彼の特別番組が組まれた。しかしながら、戦後の二人をめぐるドイツ社会への受け入れ方には大きな違いがある。そうした視点に焦点をあてながら、関係する原書講読と映像を通してその差異や思想的背景等を考察してみたい。 講義概要: 主に右記の映画作品を扱った評論を講読する。テキストとしては Guido Knopp: Hitlers nützliche Idole - Wie Medienstars sich in den Dienst der NS-Propaganda stellten. GOLDMANN 2008 年 及び Torsten Körner: Ein guter Freund - Heinz Rühmann Biographie. Aufbau Taschenbuch Verlag 2003 年等を使用の予定。テキスト教材は担当者の方で用意する。		1. 講義の概要（受講希望者は必ず出席のこと） 2. Die Drei von der Tankstelle (1) 『ガソリンボーイ 3 人組』(1930 年) 3. Die Drei von der Tankstelle (2) 4. Die Drei von der Tankstelle (3) 5. Die Drei von der Tankstelle (4) 6. Die Feuerzangenbowle (1) 『熱燗ワイン』(1944 年) 7. Die Feuerzangenbowle (2) 8. Die Feuerzangenbowle (3) 9. Die Feuerzangenbowle (4) 10. Wenn der Vater mit dem Sohne (1) 『父と息子』(1955 年) 11. Wenn der Vater mit dem Sohne (2) 12. Wenn der Vater mit dem Sohne (3) 13. Wenn der Vater mit dem Sohne (4) 14. 秋学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献Ⅰ：瀬川裕司『ナチ娯楽映画の世界』平凡社 2000 年 参考文献Ⅱ：フェーリクス・メラ著・渡辺徳美他訳『映画大臣 ゲッベルスとナチ時代の映画』白水社 2009 年 他		担当者の訳読、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義主題：「三つの文化」論に基づく、ドイツ文学と社会学の再構成、 講読目的と概要： 主題は、ヴォルフ・レペニースの「三つの文化」論に基づく、啓蒙主義以来のドイツ文学と科学の間に横たわる言論世界のコンフリクトを読み解くこと、そこからドイツ文学と社会学の共鳴的理解の地平を再構成することが、講読の目標である。ドイツでは、マックス・ヴェーバーの「理解社会学」(1913 年)が注目を浴びて久しい。レペニースは、先進国のフランスとイギリスに先立たれたドイツ文化の言論的特殊性に、ヴェーバーが深く関与している事実注目喚起する。当時のドイツを席卷していた詩聖ゲオルゲとヴェーバーのねじれた関係を手掛かりに、世界大戦前夜の公共性のマスクしたヒト社会の不安な素顔に迫る。中でも、「トーマス・マンに於けるヴェーバー的動機理解」は傑作であり重要である。ドイツ語圏の自然に培われた社会的人格 (Sozial-Person) を表現するだけでなく、歴史的個人の内奥的人格 (Intime Person) を保証する点で、ドイツ語は他に類を見ない社会学の言語である。講読の目標は、自然と社会のコンフリクトを解決する「創造的類推」の言語感性 (ソシュール) を培うこと、アメリカの解釈社会学 (Interpretative Sociology) の成果に学びつつ読み直しが進むドイツの理解社会学 (Verstehende Soziologie) の言論の世界にアプローチしたい。自分が社会人として何処に属し、同時に何処にも依存しない自由な主体であることをマニフェストするに、ドイツ文学に於ける表現主義か社会学の行動主義かという二者択一でない、「啓蒙主義の否定弁証法」(アドルノー)でも用済みとならない、相互学習可能な社会学言論の地平理解が問われる。 三年生にはドイツ語文章論の基礎的訓練を、四年生には原書を翻訳せずに分節化する訓練を促す。積極的参加とドイツ語での討議を期待している。表現主義的自己の限界と可能性を見極める為に、クリエイティブに働くモノで差別的価値の壁を見破り、利便性に呪縛された言論地平の彼方・「存在の彼方」から語るモノに耳を傾け、「ゼロ度・ゼロ記号」の視点で迫るヒト (ソシュール) へチャレンジして欲しい。		レペニースの「三つの文化」は五百頁に及ぶ大冊なので、第三部の「ドイツ」のみに限定して講読する。ヴェーバーの「理解社会学」は、必要に応じて講義する。講読書は大変読みやすいので、安心して参加して欲しい。 春学期は原書の素読に徹し、読み方・分節化の手解きを試み、「理解と解釈」社会学言論の基本的術語に慣れ親しむ。 第一回目は「序論」を読み、全体イメージを捉え、共感のポイントを探る。 第二回目は、レペニースの発問、なぜ今「三つの文化」なのか、主題分析をする。 第三回目以降は、フランスとイギリスに対するドイツの言論的固有性について講読する。 1. 科学への反感と詩作信仰 (ドイツ的イデオロギー論) 2. 詩作と文学 (ドイツ的特殊性) 3. 社会学と歴史学の反目? 4. 文学の社会離反とゲオルゲ・サークル 5. ゲオルゲ・ジンメル・ヴェーバー 6. トーマス・マンの作品に於ける、ヴェーバー的動機理解 (注目!) 7. 「ドイツ的精神」と危機意識、耽美主義と理想主義 (ユートピア論)、理念型思考との接点、共感的地平融合と離反の構造	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. Wolf Lepenies, <i>Die drei Kulturen – Soziologie zwischen Literatur und Wissenschaft</i>, Fischer Taschenbuch Verlag 2002; 講読書 2. ders., <i>Melancholie und Gesellschaft</i>; ders., <i>Kultur und Politik</i> (Hanser) 3. Max Weber, “Über einige Kategorien der verstehenden Soziologie“, 1913. 4. 宮村重徳『社会学言論のカテゴリー構想、ヴェーバー「理解社会学」の解釈課題として』(法政大学『多摩論集』第 25 号、2009 年)		三年生には出席と講読への積極的参加、評価方法は筆記試験かレポートを選択、四年生の場合、評価方法は各自の判断に任せる。卒業年度の学生の成績は基本的に自己申告制。	

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。ここでは、若干の補足をする。レペニースの『三つの文化』では、フランスとイギリスについての貴重な論攷が先に挙げられている。実は、この二つを抜きにしては、ドイツ文学と社会学の言論的特殊性は理解できない。フランスとイギリスに伝える仕方で遅れて展開されたドイツ啓蒙主義文学と哲学思想を、社会的観点から見通す必要がある。単なる比較文化論で議論を終わらせないためには、レペニースでは見えてこない地平、マンデヴィルとコンディヤックの社会言論、ソシュール「記号論」等のドイツ的受容、スピノザとヴェーバーの「理解社会学」的地平の共有について、関連して論じることが避けられない。		秋学期は春学期の課題を継続し展開する。 「三つの文化」を手掛かりに自己理解と解釈の可能性を探る。方法としては、1. 自分なりの言論分析と問いの発見、2. 自分とは異なる仕方で理解し解釈されたモノ言い逆比で学ぶ、3. コミュニケーション行為の枠組み、4. 主題と争点の絞り込み方・レポートの書き方を外国語講読の範囲内で模索する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 春学期のリストの他に以下の文献参照。講読書の訳本：ヴォルフ・レペニース『三つの文化—文学と科学の間の社会学』(松家・森・吉村共訳、法政大学出版局、2002 年)；同『メランコリーと社会』(岩田・小竹共訳、1987 年)。		春学期に準じる。	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Innerhalb der Geschichte der europäischen Musik war die deutsche Musik ab der 2. Hälfte des 18. Jahrhunderts bis ins beginnende 20. Jahrhundert führend und stilbildend, aber auch mehr und mehr Anlass für stilistische und ästhetische Diskussionen. Unter all den große Komponisten der deutschsprachigen Länder ist Ludwig van Beethoven derjenige, der für die Geschichte der deutschen Musik der Dreh- und Angelpunkt ist. Die Musik des 18. Jahrhunderts, vor allem die der Klassik, mündet in sein Werk, die Musik der Zeit nach ihm ist ohne die Auseinandersetzung mit seinem Werk nicht zu verstehen. In diesem Kurs wollen wir uns ausgehend von Beethoven mit den wichtigsten Komponisten der deutschen Musikgeschichte und ihren Werken beschäftigen. Im Sommersemester steht die Zeit vor Beethoven im Mittelpunkt, im Wintersemester die Zeit nach ihm. Grundlage des Unterrichts sind Biografien der Komponisten sowie Werkbesprechungen ausgewählter Werke. Die Liste (siehe rechts) soll als Beispiel verstanden werden, Änderungen sind möglich.		1 Einführung. Die Epochen der europ. Musik. Ein Überblick. 2 Beethoven: Biografie 3 Beethoven: Sinfonie Nr. 3 Es-Dur (Eroica), op. 55 4 Mozart: Biografie 5 Mozart: Sinfonie Nr. 40, g-Moll, KV 550 6 Haydn: Biografie 7 Haydn: Sinfonie Nr. 94, G-Dur „Mit dem Paukenschlag“ 8 C. P. E. Bach: Biografie 9 C. P. E. Bachs Konzerte und Sinfonien 10 J. S. Bach: Biografie 11 Die Violinkonzerte Bachs 12 G. F. Händel: Biografie 13 Die Orgelkonzerte Händels 14 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs ist eine Fortsetzung des Kurses des Sommersemesters, siehe deshalb den Einführungstext des Sommersemesters. Der Unterrichtsinhalt (siehe rechts) ist als Beispiel zu verstehen. Änderungen sind deshalb möglich.		1 Beethoven: Sinfonie Nr. 9 d-Moll, Op. 125 2 Schubert: Biografie 3 Schubert: Sinfonie Nr. 7, h-Moll, D 759 „Die Unvollendete“ 4 Mendelssohn Bartholdy: Biografie 5 Mendelssohn Bartholdy: Sinfonien 6 Schumann: Biografie 7 Schumann: Konzert für Klavier a-Moll, Op. 54 8 Liszt: Biografie 9 Liszt: Die sinfonischen Dichtungen Liszts 10 Bruckner: Biografie 11 Bruckner: Sinfonie Nr. 7, E-Dur 12 Brahms: Biografie 13 Brahms: Konzert für Klavier d-Moll, Op. 15 14 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、2010 年に生誕 200 周年をむかえるロベルト・シューマン（1810～1856）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。シューマンの生い立ちや活動についての文章、楽曲解説、シューマン自身が書いた手紙や評論文、シューマンゆかりの地の説明文などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたりする場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないことがないように、充分準備して臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。		1. オリエンテーション、シューマンについて 2.～14. 各回 2～3 ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、2010 年に生誕 200 周年をむかえるロベルト・シューマン（1810～1856）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。シューマンの生い立ちや活動についての文章、楽曲解説、シューマン自身が書いた手紙や評論文、シューマンゆかりの地の説明文などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたりする場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：①受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないことがないように、充分準備して臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。②春学期と連続した内容の文章を読みます。春学期に学習したシューマンの生涯や作品等についての基礎知識をもっていることを前提として授業を進めますので、なるべく通年で受講してください。		1. オリエンテーション、春学期の内容の復習 2.～14. 各回 2～3 ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

08年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「白バラの祈り」の台本（の一部）を読み、それを実際の映像と比較することで、文字テキストと映像との関連を検討する。 2) 映画を通して、「白バラ」抵抗運動の意義について考える。 3) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 講義概要 ナチ政権の末期、Sophie + Hans Scholl 兄妹らミュンヘン大学の学生を中心とするグループ「白バラ」が、ヒトラーに対する抵抗運動を市民に呼び掛け、逮捕、処刑された。この史実をテーマにした映画「白バラの祈り(SOPHIE SCHOLL-DIE LETZTEN TAGE)」2005 年／ドイツ）を鑑賞し、その台本（の一部）を読むことを通し、みなさんと同じぐらいの年齢の若者がナチ時代をどう生きたのか、その有様の一端に触れ、この出来事が現在の私たちにどうつながるのかを考えてみる。映画台本を扱うことで、authentisch なドイツ語を読む楽しさと緊張感を味わってみたい。		1. ガイダンス：テキスト、授業方針、評価方法等について 2. 「白バラの祈り」（2005 年／ドイツ）鑑賞（1） 3. 「白バラの祈り」（2005 年／ドイツ）鑑賞（2） 4. 台本の講読＋解説（1） 5. 台本の講読＋解説（2） 6. 台本の講読＋解説（3） 7. 台本の講読＋解説（4） 8. 台本の講読＋解説（5） 9. 台本の講読＋解説（6） 10. 台本の講読＋解説（7） 11. 台本の講読＋解説（8） 12. 台本の講読＋解説（9） 13. 台本の講読＋解説（10） 14. まとめ＋討論	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト>Fred Breinersdorfer (Hrsg.): SOPHIE SCHOLL-DIE LETZTEN TAGE. Frankfurt am Main (Fischer) 2006 (コピーを配布) <参考文献>適宜紹介する。		学期末に行う筆記試験、および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

08年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「ラン・ローラ・ラン」公開に際し、監督 Tom Tykwer に対して行われたインタビュー記事を読み、映画制作の意図を探る。 2) Tom Tykwer のコンセプトを検討することを通し、映画の可能性について考える。 3) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 講義概要 映画「ラン・ローラ・ラン(LOLA RENNT)」(1998 年／ドイツ)を監督した Tom Tykwer は、この作品を「世界、人生、そして映画の可能性についての映画」だと述べている。はたしてそれはどのような意味を持っているのか？映画を鑑賞し、監督に対して行われたインタビュー記事を読むことを通し、この「ロマンティックで哲学的な、アクション・恋愛・実験スリラー映画」(インタビュー記事のタイトル<Michael Töteberg>)の意義と、映画の可能性について検討する。		1. ガイダンス：テキスト、授業方針、評価方法等について 2. 「ラン・ローラ・ラン」(1998 年／ドイツ)鑑賞（1） 3. 「ラン・ローラ・ラン」(1998 年／ドイツ)鑑賞（2） 4. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（1） 5. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（2） 6. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（3） 7. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（4） 8. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（5） 9. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（6） 10. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（7） 11. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（8） 12. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（9） 13. 監督へのインタビュー記事講読＋解説（10） 14. まとめ＋討論	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト>Tom Tykwer: Lola rennt. Reinbek bei Hamburg (Rowohlt Taschenbuch Verlag) 1998 （コピーを配布） <参考文献>適宜紹介する。		学期末に行う筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
2 年生までの基礎力の上に、これまでより専門性を持ったより高度なテキストを扱うのが「講読」の前提と思われます。それゆえ正確に読むことの訓練がこの時間の眼目でしょう。しかし自分にとって興味を持てるものならば自然にその能力は伸びるし、この読む力のもとには日本語での読書経験です。その点も含めて着実に積み重ねていきたい。 春学期は、前年度秋学期に一部だけ読んだアルバン・ベルクのオペラ『ヴォツェック』の教科書版を引き続き扱います。優れて現代的な手法で現実を切り取った 19 世紀始めの劇作家ビューヒナーの遺された断片的戯曲作品に、100 年後新ウィーン楽派のベルクが作曲したものです。伝統的なオペラとは異なりモンタージュ的手法やカリカチュア的な描写で構成されている。「最後のオペラ」とも言われる前衛作品の傑作です。 広く芸術に興味のある人達の積極的な参加を希望します。		1. オリエンテーション。作者、作品の解説。 2.～3. 前学期の分を最初からさらす。 4.～14 毎回テキスト部 2 ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
ループレヒター・須永『ヴォツェック』(同学社)		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽に関するものを取り上げます		ドイツ語によるオペラのテキスト(荒すじ等の解説を含むもの)を扱います。モーツアルト(『魔笛』など)、ヴェーグナー(『さまよえるオランダ人』以外)、場合によっては歌曲なども考えています。 テキストの読解と平行し CD や DVD を用いて実際の演奏・映像にも触れたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テキストはプリントによって配ります。		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会における諸問題は、一地域や一国内にとどまるものではない。政治や経済の諸問題だけではなく、あらゆる人々の日常生活の基本となる空気や水をはじめ、すべての環境問題、社会現象、軍事問題にいたるまで世界的規模で相互依存している。 本講義では、直接的にはドイツ語圏、すなわちドイツ、オーストリア、スイスにおける現代社会が抱えるさまざまな問題への理解と関心を深める。同時に同じ諸問題の日本でのあり方との比較を促し、グローバルな視点でこれらを把握し、バランスのとれた認識と思考を促す。 春学期では、具体的事実を把握する前提として、該当地域の地理的条件や国家体制、経済的特質、人口問題のさまざまな視点からの分析、産業形態の特徴等に目を向ける。 また、参加学生はドイツ語学科学生なので、「現時点における社会の問題点」に対する関心と理解を促すため、それぞれの時点でのインターネットによるドイツのニュースを聞き取り、書き取りを行い、問題の背景を分析する。		1. ヨーロッパのなかのドイツ 2. オーストリア、スイスの地理的条件 3. 国境と言語について 4. ヨーロッパの河川と運輸／交通、国土の利用 5. 5.3 国の人口構成と社会的・歴史的影響 6. ドイツの政治的形態の歴史的形成 7. 政治的体制の特色と現状、問題点 8. オーストリアの政治体制の変遷 9. オーストリアの政党 10. スイスの政治体制の歴史的形成 11. スイスの政治体制の特色と現状 12. ドイツの人口構成とライフスタイルの特色 13. オーストリア／スイスの人口構成とライフスタイル 14. 3 国の産業構造	
テキスト、参考文献		評価方法	
http://www.spiegel.de の中の VIDEO-Nachrichten を毎日チェックすること。		講義記録と自説発表記録のノートを提出	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
上記目的をさらに具体的に把握し、理解を深めるために、個々の問題を詳細にとりあげる。 なかでも、労働問題、失業問題、外国人問題、環境問題などは学生たちにとっても身近な問題なので、できるだけ詳細で最新のデータや統計、図表を提示して、学生たちに、自主的な思考と自説の展開を求める。 学期末には 3 名程度のグループ発表と討論を予定。同時点でのインターネットのドイツ語ニュース理解も続行する。		1. ドイツの州議会選挙、スイスの国民投票、日本の参院選挙の比較 2. ドイツの労働市場。収入格差。性別、年齢別、技能別、地域別など。 3. ドイツの失業問題。 4. オーストリアの労働市場。収入格差、失業問題。 5. スイスの労働市場。収入格差、失業問題。 6. ドイツの外国人問題。その変遷と現状。 7. オーストリアの外国人問題。 8. スイスの外国人問題とその特色。 9. 環境問題。ドイツの取り組み。 10. 環境問題。オーストリア、スイスでの取り組み。 11. COP16 での問題点。 12. 世界的規模での環境問題。特に、貧困問題との関連。 13. 学生による研究発表と議論。 14. 学生による研究発表とディベート。	
テキスト、参考文献		評価方法	
http://www.spiegel.de の中の VIDEO-Nachrichten を毎日チェックすること。		講義記録と自説発表の記録ノートを提出。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 a ドイツ史概論 I	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配付するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第1回：年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 第2回：歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第3回：「記憶」をめぐる論争（1）ドイツ 第4回：「記憶」をめぐる論争（2）オーストリア／日本 第5回：ビデオ上映と解説：『ショア』関連 第6回：ハプスブルク帝国史（1）：マリア・テレジア以前 第7回：ハプスブルク帝国史（2）：マリア・テレジアの時代 第8回：19世紀史（1）：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第9回：19世紀史（2）：1848年革命の社会史 第10回：19世紀史（3）：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第11回：現代の開幕（1）：ドイツ統一と世界帝国への夢 第12回：現代の開幕（2）：第一次世界大戦（原因） 第13回：現代の開幕（3）：第一次世界大戦（経過／帰結） 第14回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2008年 第4版		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 b ドイツ史概論 II	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、ワイマール期からナチスの時代を経て、第二次世界大戦後のドイツ語圏の歴史の流れを概観していく。受講生は、この時代の主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる20世紀の激動の時代を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配付するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第1回：革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第2回：ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第3回：ファシズムの誕生（1）：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第4回：ファシズムの誕生（2）：ナチス運動の誕生 第5回：ファシズム論の変遷 第6回：危機の30年代（1）：民主政治システムの崩壊 第7回：危機の30年代（2）：戦間期の国際政治 第8回：ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第9回：受容と抵抗：ナチス体制下の民衆生活 第10回：第二次世界大戦（1）：大戦の経過と帰結 第11回：第二次世界大戦（2）：ホロコーストと戦後補償 第12回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第13回：ドイツ統一とEU新時代 第14回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2008年 第4版		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 a ドイツの経済 I	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 現代ドイツの政治や経済の現状を学ぶことを通じて、現代社会の問題を見る目を養う。		1. ガイダンス——講義の概要、文献紹介 2. 憲法、統治制度 3. 連邦制 4. 政党と選挙 5. 社会団体——経済団体・労働組合・福祉団体など 6. 市民運動、政治運動、マスメディア 7. 戦後政治経済史：敗戦、占領期（1945～1949年） 8. アデナウアー、エアハルト期（1949～1966年） 9. 大連立からブラント政権へ（1966～1974年） 10. シュミット政権からコール政権へ（1974～1989年） 11. ドイツ統一からコール政権終焉（1989～1998年） 12. シュレーダー赤緑政権（1998～2005年） 13. メルケル大連立政権（2005～2009年） 14. まとめ	
授業の概要 まずドイツの政治や社会の基本的仕組みを押さえる。その上で、戦後のドイツ政治・経済史を概観していく。その際、日本の状況との比較を意識しながら進めていく。参加者には時事問題に関するアンテナを張っておくことが期待される。		内容は変更の可能性あり。第1回の授業時に、本学期の講義計画表を配布します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。 参考文献：H.K.ルップ『現代ドイツ政治史』（深谷満雄、山本淳訳）彩流社、2002年		出席状況および学期末試験の結果に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）の際に説明します。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 b ドイツの経済 II	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 現代ドイツの政治や経済の現状を学ぶことを通じて、現代社会の問題を見る目を養う。秋学期においては、個別領域における問題を具体的に取り上げていく。日本と共通する問題もあり、比較を意識しながら問題の背景や展望について考えていく		1. ガイダンス——講義の概要（内容、評価方法など） 2. 東ドイツとは何だったのか（1）東ドイツの歴史 3. 東ドイツとは何だったのか（2）現代の「東ドイツ」をめぐる問題 4. 教育をめぐる問題（1）教育制度全般 5. 教育をめぐる問題（2）職業教育 6. 教育をめぐる問題（3）大学のあり方 7. 雇用をめぐる問題（1）労働組合 8. 雇用をめぐる問題（2）失業問題 9. ワークライフバランス（1） 10. ワークライフバランス（2） 11. 移民・外国人問題（1）歴史 12. 移民・外国人問題（2）問題点 13. 移民・外国人問題（3）統合の取り組み 14. まとめ	
授業の概要 個別領域におけるテーマを扱っていく。具体的には、東ドイツ、EU、教育、雇用、移民などである。参加者には時事問題に関するアンテナを張っておくことが期待される。原則として、		内容は変更の可能性あり。第1回の授業時に、本学期の講義計画表を配布します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。 参考文献：H.K.ルップ『現代ドイツ政治史』（深谷満雄、山本淳訳）彩流社、2002年		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 a ドイツの歴史 I	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
20世紀は「戦争の世紀」とも言われ、2度にわたる世界的規模での戦争を経験しました。その経験を踏まえて人々は21世紀には「平和な時代」を期待したはずでした。ところが、相変わらず戦争はなくなっていない。そこで私たちはもう一度20世紀の戦争を分析・検討する意義があるのではないのでしょうか。とくに、第一次世界大戦の敗北がヒトラーの台頭を招いたといわれるドイツの歴史では、これら2つの戦争は相互に密接な関連を持っています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間（1・2年間）を割いて20世紀以降の歴史を学習しています。ドイツの歴史の授業は、事項や年号の暗記ではなく、事項や史料の分析に重点がおかれています。そこでこの授業では、できるだけドイツの中学生や高校生の学ぶ歴史の授業を意識して、学生が自分で考え、史料を分析できる力を養うことを目指したいと思います。授業では、映像史料やドイツの教科書等を材料に皆さんで考え、時にはグループで話し合う時間を持ちたいと考えています。		1. ガイダンス／国民国家と民族問題①ドイツ 2. ②オーストリア 3. 第一次世界大戦 ①映像で見る世界大戦 4. ②戦争プロパガンダ 5. ③開戦をめぐる議論 6. ④「戦争の大義」と戦争目的 7. ⑤戦争の終結と革命 8. 講和条約と戦後処理①ヴェルサイユ条約とヨーロッパの再編 9. ②戦争責任と賠償問題 10. ③戦争責任と被害意識（教科書記述） 11. ヴァイマル共和国①敗戦と革命・敗戦責任論 12. ②共和国憲法と民主主義 13. ③司法と民主主義 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業時のコメント、課題、期末レポートで評価しますが、授業時の参加度なども考慮に入れます。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 b ドイツの歴史 II	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本ではヒトラーは「恐怖（狂気）の独裁者」などといわれ、異常な人間としてのイメージで語られることが多いようです。また、戦争中にドイツの行った犯罪行為は、すべてヒトラーの命令でだれも逆えなかったかのようなイメージで語られることが多いでしょう。しかし、現在のドイツでは、ナチ体制下で起きた出来事を、ヒトラー個人の問題としてではなく、ドイツ国民全体の問題として捉えようという視点に立って歴史教育が行われています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間を割いてナチ時代の歴史を多角的に学習しています。ドイツの歴史の授業は、事項や年号の暗記ではなく、事項や史料の分析に重点がおかれています。そこでこの講義では、できるだけドイツの中学生や高校生の学ぶ歴史の授業を意識して、学生が自分で考え、史料を分析できる力を養うことを目指したいと思います。授業では、映像史料やドイツの教科書等を材料に皆さんで考え、時にはグループで話し合う時間を持ちたいと考えています。 また、歴史教育は国民の歴史認識と深いかわりを持っています。そこでドイツにおける戦後の歴史認識と歴史教育についても最後に簡単に触れて、日本での歴史教育を考える一助にしたいと思います。		1. ガイダンス／ヨーロッパのファシズム運動 2. ナチ党への支持 3. ヴァイマル共和国の崩壊 4. 「ユダヤ人」への迫害①反ユダヤ主義の系譜 5. ②19世紀後半以降の反ユダヤ主義 6. ③教科書の中の「ユダヤ人」 7. ④ホロコーストへの道程 8. ヒトラー神話：プロパガンダと国民 ①経済不況と国民生活 9. ②ドイツの外交政策 10. ナチズムに対する受容と抵抗①命令と服従 11. ②国防軍の犯罪 12. ③抵抗運動 13. 戦後ドイツの歴史認識 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業時のコメント、課題、期末レポートで評価しますが、授業時の参加度なども考慮に入れます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 a ドイツの地誌・民俗 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語圏の地誌を把握することを目的とし、対象地域をライン川流域地域とする。ライン川は、スイス・アルプスに源を発し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が発展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。		1. 導入：ライン川の地理 2. Alpenrhein (1) 3. Alpenrhein (2) 4. Hochrhein (1) 5. Hochrhein (2) 6. Hochrhein (3) 7. Oberrhein (1) 8. Oberrhein (2) 9. Oberrhein (3) 10. Mittlerrhein (1) 11. Niederrhein (2) 12. Niederrhein (3) 13. Rheindelta 14. まとめ：ライン川流域空間	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 b ドイツの地誌・民俗 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、以下の 3 つの視点からドイツ語圏（ドイツ・スイス・オーストリア）の環境および環境問題について取り扱う。第一に 3 か国の自然環境を地形・水文・気候といった自然地理学的観点から把握する。第二に、3 か国のなかでも特にドイツに焦点を当て、環境政策、地域政策、都市政策を概観する。第三に、同分野の EU レベルでの政策についてもみていく。		1. 導入：ドイツ語圏の地域・環境問題 2. ドイツ地誌 3. ドイツの自然環境 4. スイス地誌 5. スイスの自然環境 6. オーストリア地誌 7. オーストリアの自然環境 8. ドイツの環境政策 9. ドイツの地域政策 10. ドイツの都市政策 11. EU の環境政策 12. EU の地域政策 13. EU の都市政策 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU a ドイツの政治・対外関係 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU に関する基礎的な知識を習得したうえで、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。		1. 導入：ヨーロッパとは何か 2. EU 導入 3. EU の形成・発展過程(1) 4. EU の形成・発展過程(2) 5. EU の形成・発展過程(3) 6. EU の形成・発展過程(4) 7. EU の東方拡大(1) 8. EU の東方拡大(2) 9. 東方拡大と農業政策(1) 10. 東方拡大と農業政策(2) 11. EU と地域(1) 12. EU と地域(2) 13. EU と地域(3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU b ドイツの政治・対外関係 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツの都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて、具体的な事例をもとに明らかにしていく。		1. 導入：ドイツの都市 2. ドイツ再統一（1）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（2）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（3）：冷戦後の旧東ドイツ都市 5. ドイツ再統一（4）：ポツダム広場 6. ドイツ再統一（5）：プレントラウアー・ベルク 7. ヨーロッパ統合（1）：EU 8. ヨーロッパ統合（2）：統合と地域間格差 9. ヨーロッパ統合（3）：EU 地域政策 10. ヨーロッパ統合（4）：ユーロリージョン 11. 地方分権（1）：多極分散型国家 12. 地方分権（2）：空間整備政策 13. 地方分権（3）：都市計画 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

08 年度以前	ドイツの法律 I	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ法 a では、ドイツ法の基礎知識として、ドイツ法資料へのアクセスのしかたを学びながら、基本法の構成・特徴を学びます。その後、ドイツと日本で共通的問題点を抱えている各法領域を、それぞれの解決方向の共通性と相違点を比較しながら、分析してみたいと考えています。基本的には公法領域が中心となりますが、教育法や社会保障法・福祉法など社会法領域も視野に入れていきたいと思っています。		1 講義の進め方とスケジュール 2 ドイツ基本法を手に入れよう 3 ドイツ基本法の特徴 4 ドイツ基本法の構造（1） 5 ドイツ基本法の構造（2） 6 ドイツ行政法と日本行政法 7 ドイツの地方自治 8 ドイツの裁判制度 9 ドイツ教育制度と教育改革 10 ドイツ教育裁判 11 ドイツの児童福祉法 12 ドイツの介護保険制度 13 ドイツの成年後見制度 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定しませんが、ドイツ語辞書は必要です。		試験またはレポート	

08 年度以前	ドイツの法律 II	担当者	宗田 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
経済の持続的発展のために、企業の経済活動をどのように律すべきか。この問題は、消費者と企業との取引に関連して、我々消費者の身近なところに存在します。 例えば、将来皆さんが、民間企業のある商品メーカーに勤めた場合にも、消費者として日用品を買ったり、趣向品を買ったりしますよね。このように、企業活動と消費者行動とは、同じコインの裏表の関係にあり、切っても切り離せないもののなのです。ですから、企業活動をどのように律すべきかと言う問題は、消費者の利益をどのように確保すべきかと言う問題でもあるのです。 今日では、企業の社会的責任（CSR）として、環境、消費者の安全、法令順守に配慮した企業活動が、各企業に求められているところです。 そこで、本講義では、将来多くの皆さんが就職する民間企業が、こういった観点のもとで、どのような企業活動を行なうことが、消費者の利益を損なわず、法律に違反しないことであるのかについて、知識を提供し理解を深めます。 そのために、本講義では、経済の持続的発展を目標としている欧州連合（EU）の中心的存在であるドイツの消費者法を検討することになります。 また、ドイツの消費者法を学びつつ、我が国の消費者法はどうなっているのかについても、関心を高めてもらいたいと思っています。		1 消費者法とは 2 割引法・景品規則 3 誤認惹起広告、比較広告に対する規制 4 訪問販売、DM に対する規制 5 電話勧誘、FAX 広告に対する規制 6 電子メール広告に対する規制 7 製造者責任、製造物責任法等 8 約款規制 1 9 約款規制 2、訪問販売と撤回権 10 通信販売・電子商取引と情報提供義務 11 エンフォースメント① 12 エンフォースメント② 13 近時の展開 14 まとめ （順序等、変更の可能性あり）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 宗田貴行 迷惑メール規制法概説 レクシスネクシスジャパン 2006 年		成績はレポートで決めます。しかし、出席していないと、ちゃんと書けないレポートですので、出席をちゃんとするように。	

08 年度以前	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
移民という点からドイツの歴史を見ると、両大戦間期は大きな転換期といえる。19 世紀のドイツは海外移民を送り出す国であったが、今日のドイツは移民の統合に悩む国である。 この転換はどのように起きたのだろうか。ドイツの海外移民は 19 世紀末にすでに終息に向かっていたが、第 1 次世界大戦後はヨーロッパ全体でも移動が停止した時期といわれる。再び移動が始まるのは 30 年代半ば以降である。いうまでもなく、ドイツの場合、このことはナチスの支配と関係している。 実はドイツには中世以来、もう一つの移民の流れがあった。それは東ヨーロッパやロシアに向かう移民の流れである。在外ドイツ人 <i>Auslanddeutsche</i> と呼ばれるこの移民たちの子孫に国籍を与えようとする動きは第二帝政期にすでに存在し、第 1 次世界大戦のドイツの戦争目的のなかにも含まれていたと考えられるが、「生存圏」の拡大によって「民族ドイツ人」<i>Volksdeutsche</i> を文字通りもう一度取り戻そうとしたのか、ナチの時代である。 このような転換の時代の移民の歴史をテキストに沿って学んでいく。		1 講義の概要 2 両大戦間期の移動と保護主義 3 両大戦間期の移動と保護主義 4 両大戦間期の移動と保護主義 5 両大戦間期の移動と保護主義 6 大量移動としての亡命、追放、移民 7 大量移動としての亡命、追放、移民 8 大量移動としての亡命、追放、移民 9 大量移動としての亡命、追放、移民 10 第二次世界大戦中の亡命、送還、強制労働 11 第二次世界大戦中の亡命、送還、強制労働 12 第二次世界大戦中の亡命、送還、強制労働 13 第二次世界大戦中の亡命、送還、強制労働 14 第二次世界大戦中の亡命、送還、強制労働 15 まとめと結論	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus J. Bade/Jochen Oltmer, <i>Normalfall Migration</i> (Bonn, 2004)(こちらで教材のコピーを用意します)		学期末の筆記試験に平常点を加味して評価します	

08 年度以前	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
中世以降、ドイツから東ヨーロッパやロシアに移住した人々の子孫は、ナチの時代に強制的にドイツ国籍を与えられ、占領地域を「ドイツ化」するのに利用された。独ソ戦が始まり、ドイツの敗色が濃くなると、この人々は撤退するドイツ軍とともに避難したり、追放されて難民と化した。この人々の移動は戦後も続いたが、彼らを帰還者(帰還ドイツ人)<i>Aussiedler</i> と呼ぶ。 東西冷戦が終結した後、この人々は「鉄のカーテン」をくぐって、再び旧西ドイツに殺到した。この人々を後期帰還者(後発帰還ドイツ人)<i>Spätaussiedler</i> と呼ぶ。歴史に翻弄された彼らを始め、再統合以降、さまざまな移民の殺到に直面して、ついに連邦共和国は従来の血統主義を放棄し、生地主義を加味した新たな国籍法を成立させ、2004 年にはこの国籍法を含む移民法を成立させた。 帰還者と後期帰還者の歴史を中心に、移民法の成立にいたる過程をテキストを通じて学んでいく。		1 講義の概要 2 帰還者 3 帰還者 4 帰還者と後期帰還者 5 帰還者と後期帰還者 6 帰還者と後期帰還者 7 帰還者と後期帰還者 8 「不法労働者」 9 「不法労働者」 10 「不法労働者」 11 法改正—移民法にいたる道 12 法改正—移民法にいたる道 13 法改正—移民法にいたる道 14 法改正—移民法にいたる道 15 まとめと結論	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus J. Bade/Jochen Oltmer, <i>Normalfall Migration</i> (Bonn, 2004)(こちらで教材のコピーを用意します)		学期末の筆記試験に平常点を加味して評価します	

08年度以前	ドイツ語講読(歴史)【水3】	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。 テキストのテーマは「ドイツの移民の歴史」		① テキスト配布，内容の簡単な説明 ② 講読 ③ 講読 ④ 講読 ⑤ 講読，テスト ⑥ 講読 ⑦ 講読 ⑧ 講読 ⑨ 講読 テスト ⑩ 講読 ⑪ 講読 ⑫ 講読 ⑬ 講読 ⑭ 講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

08年度以前	ドイツ語講読(歴史)【水3】	担当者	増谷 英樹 d
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。 テキストのテーマは「ドイツの移民の歴史」		① テキスト配布，内容の簡単な説明 ② 講読 ③ 講読 ④ 講読 ⑤ 講読，テスト ⑥ 講読 ⑦ 講読 ⑧ 講読 ⑨ 講読 テスト ⑩ 講読 ⑪ 講読 ⑫ 講読 ⑬ 講読 ⑭ 講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

08年度以前	ドイツ語講読(歴史)【水4】	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。 テキストのテーマはオーストリアないしウィーンの歴史を予定		① テキスト配布，内容の簡単な説明 ② 講読 ③ 講読 ④ 講読 ⑤ 講読，テスト ⑥ 講読 ⑦ 講読 ⑧ 講読 ⑨ 講読 テスト ⑩ 講読 ⑪ 講読 ⑫ 講読 ⑬ 講読 ⑭ 講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

08年度以前	ドイツ語講読(歴史)【水4】	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。 テキストのテーマはオーストリアないしウィーンの歴史を予定		① テキスト配布，内容の簡単な説明 ② 講読 ③ 講読 ④ 講読 ⑤ 講読，テスト ⑥ 講読 ⑦ 講読 ⑧ 講読 ⑨ 講読 テスト ⑩ 講読 ⑪ 講読 ⑫ 講読 ⑬ 講読 ⑭ 講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

08年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ドイツ語圏社会をより良く理解できるようになることを目標とする。 そのために、現代のドイツ語圏社会がかかえる問題やドイツ語圏で起きた事件についての解説記事や対談記事を読むための読解力を向上させる。		1：授業計画の説明、教材のコピー配布 2：最近話題になっている記事を教材に読み始める。 3：前回の終わったところから読み進む。 4：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 5：前回は配布した新しい記事を読み始める。 6：前回の終わったところから読み進む。 7：前回の終わったところから読み進む。 8：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 9：前回は配布した新しい記事を読み始める。 10：前回の終わったところから読み進む。 11：前回の終わったところから読み進む。 12：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 13：前回の終わったところから読み進む。 14：配布した記事を読み終わり、まとめをする。	
講義概要： 最近の新聞、雑誌、インターネットの解説記事、対談記事を適時取り出して、読んで行く。 社会に関する用語に注意して読む。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：未定。できるだけ新しい記事をコピーして、配布する。		期末の筆記試験、授業での参加意欲を参考に評価する。	

08年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	林部 圭一
		授業計画	
講義目的： ドイツ語圏社会をより良く理解できるようになることを目標とする。 そのために、現代のドイツ語圏社会がかかえる問題やドイツ語圏で起きた事件についての解説記事や対談記事を読むための読解力を向上させる。		1：授業計画の説明、教材のコピー配布 2：最近話題になっている記事を教材に読み始める。 3：前回の終わったところから読み進む。 4：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 5：前回は配布した新しい記事を読み始める。 6：前回の終わったところから読み進む。 7：前回の終わったところから読み進む。 8：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 9：前回は配布した新しい記事を読み始める。 10：前回の終わったところから読み進む。 11：前回の終わったところから読み進む。 12：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 13：前回の終わったところから読み進む。 14：配布した記事を読み終わり、まとめをする。	
講義概要： 最近の新聞、雑誌、インターネットの解説記事、対談記事を適時取り出して、読んで行く。 社会に関する用語に注意して読む。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：未定。できるだけ新しい記事をコピーして、配布する。		期末の筆記試験、授業での参加意欲を参考に評価する。	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、 1. 文法知識の徹底と強化 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成 を図ります。 すなわち、学年が上がるうちに「自分はいつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「改めて、きちんと頭で納得できる形で文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。 その一方、ドイツ語検定2級合格も視野に入れて、種々の注意を喚起します（したがって、すでに2級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい）。		この講義は3・4年生の混在クラスであることから、例年そもそも所属学年に起因する知識量に差異が見られます。加えて個々人のそれまでの学習態度に起因して、その差異はさらに振幅の度を増してスタートラインに着くこととなります。そのような現況の元では、事前に機械的な計画を提示することは却って画餅に帰するでしょう。 大事なことは「形式を整える」ことにあるのではなく、「中身を充実させる」ことにあるはずです。まずは第1回講義時の「クラスの雰囲気・気配を嗅ぎとって」、講義時間内に方針を立案し、皆さんに口頭で提示します。つまり、「相手を見て最良の戦略を決める。」ということです（↓の秋学期の「授業計画」に続く）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書『医学ニュースを読もう』 内藤洋子 編、郁文堂(ISBN 4-261-01009-7) また、「独和辞典」および文法の資料（手持ちの教科書・参考書等）必携。		出席重視。また、学期末にペーパーテストを実施。なお正当な理由を報告しないまま、連続して3回以上（つまり一ヶ月）欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。特に就職活動従事者は、「黙って休んでいて、連休明け頃にいきなり来る」ことをしないこと（試験は出席していないと点が取れない問題になっています）。	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は冒頭に提示した「講義目的」の2.に移行させます。 というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。本講義ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却し、自然な日本語への翻訳力の涵養（かんよう）を図ります。		以下、↑の方針を敷衍すべく、中身に具体性を持たせましょう。 春学期においては冒頭の「講義目的」の1.に重きを置きます。したがって文法中心の内容となるため、いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態、法の変換等を反復的に演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなります。 秋学期では左の蘭(←)の「講義目的」にあるように「講義目的」の2.に重きを置くつもりですが、新規履修者と継続履修者の比率や春学期履修者のペーパーテストの成績を踏まえ、適切な進・深度を設定します。（早い話が、やはり顔ぶれとそのレベルに応じて柔軟に対応することです。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns anhand kurzer Texte mit aktuellen sozialen und politischen Fragen der Schweiz und der Bundesrepublik Deutschland. Dabei gehen wir von den wichtigsten Schlagwörtern aus, die die politischen Diskussionen in den beiden Ländern in den letzten Jahren geprägt haben, wie zum Beispiel "Hartz IV", "Minarettinitiative", "Bankgeheimnis" oder "Mindestlohn". Die Studierenden werden sich einzeln oder in Gruppen die Texte lesen, sich mit den Schlagwörtern und dem Inhalt beschäftigen und (auch in Form von Hausarbeit) ihre Bedeutung und den politischen und sozialen Hintergrund ihrer Verwendung erarbeiten. Die Unterrichtssprache ist ausschließlich Deutsch.		1. bis 6. Stunde: Lektüre von 2-3 Texten und Kurzreferate 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8. bis 12. Stunde: Lektüre von 2-3 Texten und Kurzreferate 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns anhand kurzer Texte mit aktuellen sozialen und politischen Fragen der Schweiz und der Bundesrepublik Deutschland. Dabei gehen wir von den wichtigsten Schlagwörtern aus, die die politischen Diskussionen in den beiden Ländern in den letzten Jahren geprägt haben, wie zum Beispiel "Hartz IV", "Minarettinitiative", "Bankgeheimnis" oder "Mindestlohn". Die Studierenden werden sich einzeln oder in Gruppen die Texte lesen, sich mit den Schlagwörtern und dem Inhalt beschäftigen und (auch in Form von Hausarbeit) ihre Bedeutung und den politischen und sozialen Hintergrund ihrer Verwendung erarbeiten. Die Unterrichtssprache ist ausschließlich Deutsch.		1. bis 6. Stunde: Lektüre von 2-3 Texten und Kurzreferate 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8. bis 12. Stunde: Lektüre von 2-3 Texten und Kurzreferate 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
ヘルムート・シュミット（旧西ドイツの連邦首相）の論文『公共のモラルを求めて』（Auf der Suche nach einer öffentlichen Moral: Deutschland vor dem neuen Jahrhundert 1998）の原典講読を通じて、現代社会における公共のモラルのあり方を現実主義的な立場から考察して行きたい。 極めて明晰な文章なので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。		1 回目 ガイダンス 2 回目～1 4 回目 原典講読	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況（3 分の 2 以上の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味しつつ、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
ヘルムート・シュミット（旧西ドイツの連邦首相）の論文『公共のモラルを求めて』（Auf der Suche nach einer öffentlichen Moral: Deutschland vor dem neuen Jahrhundert 1998）の原典講読を通じて、現代社会における公共のモラルのあり方を現実主義的な立場から考察して行きたい。 極めて明晰な文章なので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。		1 回目 ガイダンス 2 回目～1 4 回目 原典講読	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況（3 分の 2 以上の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味しつつ、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

08 年度以前	卒業論文	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
4 年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。 1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。 2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。 3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの仕上げを目指す。 *注意* この授業は、主に論文のリテラシーや研究調査の進め方に関しての授業を行う。論文の専門的な内容については、あくまでも指導教員との綿密な話し合いや教員からの指導が不可欠である。		詳しくは第 1 回授業時に説明する。 第 1 回 導入 第 2 回 卒論の基本的なリテラシー 第 3 回 論文題目提出のための準備 1 第 4 回 論文題目提出のための準備 2 第 5 回 文献目録の作成 第 6 回 文献目録の作成 第 7 回 卒論作成のためのストラテジー 1 第 8 回 卒論作成のためのストラテジー 2 第 9 回 卒論作成のためのストラテジー 3 第 10 回 卒論作成のためのストラテジー 4 第 11～14 回 中間報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示する。		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。	

08 年度以前	卒業論文	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期を参照。 秋学期では、論文の仕上げ・提出に向けての授業、口頭試問が中心となる。		第 1 回 夏休みの成果報告 第 2 回 論文のストラテジー 1 第 3 回 論文のストラテジー 2 第 4 回 論文のストラテジー 3 第 5 回 論文のストラテジー 4 第 6 回 論文の日本語 1 第 7 回 論文の日本語 2 第 8 回 要約のためのドイツ語 1 第 9 回 要約のためのドイツ語 2 第 10 回 要約のためのドイツ語 3 第 11 回 要約のためのドイツ語 4 第 12～14 回 口頭試問	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示する。		春学期を参照。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	太田 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
2008 年の観光庁発足に象徴されるように、ツーリズムの振興は国家的戦略目標になっています。独自の豊かな文化を持つ国々や地域は多数の人々をひきつけてやみません。文化は国や地域の歴史、伝統、人々の行動様式や価値観の表れでもあります。オーランドやラスベガスにみられる巨大ツーリズム産業の成立は、アメリカの開拓者精神を抜きには語れません。アジア各地に展開する香港系高級ホテルチェーンの成功も、華人文化に脈々と流れる事業家精神の基礎の上に築かれています。 若い世代の海外旅行離れは日本のツーリズム衰退につながる危険性をはらんでいます。メディアの発達により、海外の事情をいながらにして知ることが出来る時代になりました。東アジアの若い世代は、さまざまなメディア情報に触発され、海外を目指します。日本の同世代は疑似体験に満足し、内にこもります。自らの旅行体験に根ざした、グローバルな視野を持った若い世代が育つことが、インバウンド、アウトバウンドに限らず、日本のツーリズム振興にとって重要だと考えます。こうした考えに基づき講義を進めたいと思います。外国の基本的な地名、人名等の正しい英語表記使用を含め、一般授業を通じて英語力の裾野を広げる機会を提供するのも本講義のねらいの一つです。		1. インバウンドツーリストに見るツーリズム文化 2. インターネットとツーリズム 3. 外国政府観光局のツーリズムプロモーション 4. アメリカのツーリズム文化 5. 大自然の魅力を最大限に引き出し、環境にも配慮するアメリカの国立公園行政 6. オーランドやラスベガスに見る、巨大ツーリズム産業の成立 7. クルージングを楽しむ人々 8. 世界で宿泊産業をリードするホテルチェーン 9. アジアのツーリズムを支える頭脳集団 10. 旧暦の正月こそ本当の正月、東アジアの華人文化 11. 植民地遺産を活かす香港のツーリズム 12. アジアの大衆文化とツーリズム 13. 琉球文化とアメリカ文化の混合が独自の魅力を作り出す沖縄 14. 国家の総合力を試される MICE ツーリズムの行方	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		小テスト 2 回（40%）と期末試験（60%）を実施します。出席日数が少ない場合減点対象とすることがあります。	

09 年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでの NGO 活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域の発展を理解するための視座 3. 内発的発展と外来型開発 4. 組織・制度化 (institutionalization) 5. 住民参加(participation)の意義と多義性 6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 7. 内発的発展におけるキーパーソン 8. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグランを例として 9. コミュニティマネー（ビデオ、坂本龍一『地域通貨の未来』） 10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでの NGO 援助を事例として 11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし 12. 多文化共生と地域づくり 13. まちづくりと観光（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』） 14. 大学とまちづくり 15. まとめ：「まちづくりは人づくり」	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※各自で購入してください		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。I T時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。 宿泊産業では旅館を含む全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタル産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にした。		1. 講義の概要 2. 旅行業の沿革① 3. 旅行業の沿革② 4. 旅行会社の意義と役割 5. 旅行会社の分類と商品 6. 旅行会社の業務 7. 旅行業界の現状と課題・展望 8. 宿泊業の沿革 9. 宿泊業の概要 10. ホテル業の種別 11. ホテル業の運営経営形態 12. ホテル業のサービス 13. ホテル業界の現状と・展望 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空政策の現状と課題、及び将来の展望について理解する。 講義概要 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策の課題についても触れ、今後の展望を学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にした。		1. 講義の概要 2. 国際線運航の原則 ①領空主権主義と運輸権 3. 国際線運航の原則 ②シカゴ条約と空の自由 4. 航空の国際的組織 ICAO と IATA 5. 米国の航空規制緩和 6. 航空規制緩和と LCC（ロー・コスト・キャリア） 7. 米国の新規航空企業 ①サウスウエスト航空の事例 8. 米国の新規航空企業 ②サウスウエスト航空の事例 9. 航空経営戦略の潮流（ハブ・アンド・スポークとアライアンス） 10. 日本の航空政策と規制緩和 11. 日本の航空業の現状（JAL・ANA・新規企業） 12. 日本の空港の現状と課題① 13. 日本の空港の現状と課題② 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：航空産業入門（ANA総合研究所）東洋経済新報社、航空事業論（井上泰日子）日本評論社		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義目的] 表象(representation)と文化の関係を考察する。 [講義概要] テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編集した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋(pp. 13-74)を用いる。 テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーするか、講義支援システムからダウンロードすることもできる。(但し、登録期間終了までは、各自のアカウントからは入れないので、高橋雄一郎の教員名から、授業科目を探すこと。) 昨年度、英語学科の「英語圏の文学・文化特殊講義 a (高橋)」で単位を修得した学生は、内容が重複するので、履修が認められない。		第 1 回：セクション 1 第 2 回：同上 第 3 回：同上 第 4 回：同上 第 5 回：同上 第 6 回：セクション 2 第 7 回：同上 第 8 回：同上 第 9 回：セクション 3 第 10 回：同上 第 11 回：セクション 4 第 12 回：同上 第 13 回：同上 第 14 回：同上 初回の授業には 15 分から 19 分上半分までを予習してくること。初回から実質的な授業をおこなうので、充分注意して出席すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記テキスト以外の参考文献は、授業時に適宜、紹介する。		授業への積極的な参加と、課題による。	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の最新の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』		1. 講義の概要 2. 開発と文化変容 (ビデオ『ラダック：懐かしい未来』) 3. 社会的構築物としての貧困とポスト開発思想 4. ある女性 NGO ワーカーの遍歴と教訓 5. フェアトレードの父の思想と哲学 6. 伝統文化と教育・学び 7. グローバル化・伝統・ジェンダー 8. 宗教と社会開発 NGO 9. 地域メディアとアイデンティティ戦略 10. コミュニティと外部を結ぶ人材 11. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ 12. 構造調整と農民・先住民の自己防衛 13. 巨大開発計画と地域住民・NGO 14. 文化変容とグローバル公共空間 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※各自で購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という 3 つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. まとめ・予備日 （なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎のレスポンスペーパー+小レポート(50%)、期末テスト(50%)	

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。ただし、「市民参加のまちづくり論」未受講生も全く問題なく受講することができます。 近年、環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。		1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。		1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 観光政策と行政、観光に関する政府の具体的な施策、行政組織や「観光立国推進基本法」を学習することにより「観光立国」を目指す観光政策への理解を深める。 講義概要 国際観光推進による外貨獲得と国際理解の増進は、わが国のみならず諸外国においても重要な国の政策である。観光現象は経済的、政治的、文化的に強い影響力を社会に及ぼし、近年は自然景観や環境との関係も注視されている。多様で影響力の強い観光現象に対して、国や地方自治体等の行政機関がどう関わるかはそれぞれの観光政策に基づいていることを理解する。 わが国の観光政策を明治時代から現代まで、それぞれの時代の状況に応じてどんな政策が講じられたかを学ぶことにより、なぜ今、観光立国を国策とすることの意味を認識する。併せて、観光行政組織や関連法規についても学習する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。		講義の概要 1. 観光政策とは 2. 観光政策の課題①国際観光の推進・外貨獲得・国際理解 3. 観光政策の課題②国民の余暇と観光の健全な発展 4. 観光政策の課題③地域振興としての観光開発 5. 観光政策の変遷①明治時代・大正時代の観光政策 6. 観光政策の変遷②昭和時代の観光政策（戦前・戦後） 7. 観光政策の変遷③昭和時代の観光政策（海外旅行自由化と促進策） 8. 観光政策の変遷④昭和時代の観光政策（貿易外収支改善とデフレミリオンプラン） 9. 観光政策の変遷⑤昭和時代の観光政策（総合保養地整備法と内需拡大） 10. 現代の観光政策①観光立国推進とV J C 11. 現代の観光政策②観光立国推進基本法 12. 観光の行政組織・観光庁と政府観光局 13. 観光の関連法規 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光学入門（岡本伸之）有斐閣、観光行政と政策（進藤敦丸）明現社、その他適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム産業におけるマネジメントの基本であるマーケティングの基本概念や、観光市場調査の方法、観光行動の分析、観光需要予測、商品企画等をマーケティングの側面より学習する。 講義概要 ツーリズム産業のマーケティングに関して、需要予測、市場分析、環境分析、価格戦略、販売促進戦略等のマーケティング手法を基に、各分野の具体的な事例を検証する。旅行業では旅行ブランドの実態、ブランドの定義、機能、確立条件、旅行商品とブランド等、ブランドに焦点を絞り考察する。又、宿泊業、航空業、観光地のマーケティング戦略について学習し、ツーリズム産業におけるマーケティングの重要性を理解する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。		1. 講義概要 2. マーケティングの定義 3. 需要予測・ニーズとウォンツ 4. 購買意思決定プロセス 5. 市場分析・セグメンテーション 6. マーケティングの環境分析とは（SWOT分析） 7. 市場成長率・相対的市場 8. 旅行商品の流通チャネル 9. マーケティングと価格戦略 10. ブランド構築 11. 販売促進戦略 12. マーケティングリサーチ 13. マーケティングの社会的役割 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光マーケティング入門（森下昌美）同友館 その他、適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、「ツーリズムとメディアの係わり方」をテーマに、メディアを通して、ツーリズム産業を俯瞰（ふかん。高所から見渡すこと。）し、その動向全体を把握する中で、その課題と方向性について検討すること、さらにはその新たな潮流の可能性について考えることです。 講義内容としては、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、新聞・業界紙等のメディアを通して、企業の広報・広告、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、時にはその表面と裏面についても比較研究することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。		1. 講義の概要 2. ツーリズム・広報から見たメディア(1) 3. ツーリズム・広報から見たメディア(2) 4. ツーリズム・広報から見たメディア(3) 5. ツーリズム・販売促進から見たメディア(1) 6. ツーリズム・販売促進から見たメディア(2) 7. ツーリズム・販売促進から見たメディア(3) 8. メディアから見たツーリズム(1) 9. メディアから見たツーリズム(2) 10. メディアから見たツーリズム(3) 11. 業法・約款から見たツーリズム(1) 12. 業法・約款から見たツーリズム(2) 13. 業法・約款から見たツーリズム(3) 14. 講義のまとめ (日次の順序は前後します)	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（80％）＋平常授業における課題レポート等（20％）＝100点満点	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 文化を捉える視点：伝統・近代・グローバル化 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 伝統の変容と越境（日本食、中華料理、エスニック料理などを例に） 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. 現代人の食：「マクドナルド化」概念を手がかりに 7. 現代のフードシステム：外食と中食（なかしょく） 8. 自給率問題とフードマイレージ 9. 食とグローバリズム（ビデオ『キング・コーン』） 10. 食とナショナリズム（捕鯨、コメ問題） 11. 食育と学校 12. フェアトレードの展開と現状 13. 有機農業運動、スローフード運動 14. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 15. まとめ：食の「再ローカル化」（re-localization）をめざして	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義目的] パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。 [講義概要] 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。		第1回：イントロダクション 第2回：パフォーマンスとは何か 第3回：パフォーマンス研究とは何か 第4回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5回：宗教祭祀の比較研究 第6回：世俗儀礼の比較研究 第7回：パフォーマンスと民族誌 第8回：パフォーマンスと遊戯 第9回：国際的パフォーマンス 第10回：アイデンティティとパフォーマンス 第11回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13回：パフォーマンスとパフォーマンスティヴィティ 第14回：パフォーマンスと現代思想 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：鈴木健・高橋雄一郎編著『クリティカル・カルチュラル・スタディーズパフォーマンス研究のキーワード』大阪、世界思想社、2010（予定）。 Richard Schechner, <i>Performance Studies: An Introduction</i>, New York: Routledge, 2006. 参考書：高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005.		授業中に数回実施する小テストと、学期末に提出するレポートの合計による。	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。 21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目し、グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. アイデンティティ①：在日学生の手記（その1） 12. アイデンティティ②：在日学生の手記（その2） 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 学生研究に有用な調査方法 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。 なお、毎回小レポートを課すので、注意されたい。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバン の事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江 の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米イヌイットの事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 - コミュニティ・ベース・ツーリズム 1—タイ北部の事例— - コミュニティ・ベース・ツーリズム 2—ソロモン諸島の事例— - まとめ・予備日 （なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。	

09 年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
「人に読ませる文章」を書くには、どのような訓練・思考・実践が必要なのかを論じる。マスコミ、メディア業界を志望する者のみならず、一般常識として必要とされる企画・起案書、報告書など、社会人として当然知識を備えているべき文書の書き方も講義する。実戦的な記事・文書執筆、その編集・校正・校閲などを、受講者に参加させる形で講義する。		実際の受講者数を見た上で授業のやり方・進め方を決める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		未定（履修する学生の人数によって決定する）	

2010年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学用)

03 年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成①）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。 本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？ 様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててみてください。		1. 工藤和宏（コーディネーター）導入 2. 木村佐千子（独語学科）ナチス・ドイツと音楽家たち 3. 林部圭一（独語学科）歌人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ 4. 浅岡千利世（英語学科）グローバル化時代の外国語教育と学習者のアイデンティティ 5. 北野収（交流文化学科）フェアトレードの誕生——ヴァンデルホフ神父の半生から 6. 杉山晴信（英語学科）法規範としての"Plain English"と消費者保護の思想 7. 田中善英（仏語学科）ことばを守るということ 8. 佐野康子（英語学科）グローバル社会の中の東アフリカ 9. 橋本博子（モナシユ大学人文学部）グローバル化と留学交流 10. 阿部仁（一橋大学国際教育センター）「異文化」を理解する 11. 堀越喜晴（明治大学政治経済学部）バリアオーバーコミュニケーション——コミュニケーションの本質を考える 12. 工藤和宏（英語学科）獨協大学と留学生——学生交流促進の試みから学んだこと 13. 原成吉（英語学科）詩と禅とエコロジーから見た環太平洋文化 14. 太田浩（一橋大学国際教育センター）グローバル化と高等教育——国境を跨ぐ学生と大学の動向 <u>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</u>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

03 年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成②）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。 本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？ 様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててみてください。		1. 工藤和宏（コーディネーター）導入 2. 横地卓哉（仏語学科）グローバル化——負の側面 3. 古田善文（独語学科）グローバル化の波に翻弄される統一 20 年後のドイツ 4. 若森栄樹（仏語学科）ヨーロッパから見たグローバリゼーション 5. 渡部重美（独語学科）ゲーテのイタリア旅行——詩人再生の旅 6. 田村毅（仏語学科）海を渡る女神たち——地中海文化圏の拡大と神話の習合 7. 鍋倉健悦（英語学科）自己成長と幸福 8. 日野克美（交流文化学科）ジョークを通しての人間観と国際関係 9. 山本淳（独語学科）ブルーノ・タウトと日本 10. 菅野直樹（防衛省防衛研究所）歴史研究の所産と意義 11. 工藤和宏（英語学科）グローバル JAPAN、「日本人論」と日本の若者 12. A. Zollinger（英語学科）Teriyaki Beef and Rainbow Rolls: The Globalization of Japanese Cuisine 13. 柿沼義孝（独語学科）外国語学習と日本の伝統文化 14. 工藤和宏＜総括＞〇〇時代の人間形成——50 年後の「私（たち）」 <u>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</u>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想 3～4. 戦後復興～1980 年代 5～6. マーストリヒト条約以降の EU 7～8. EU の制度 9～11. EU の諸政策 12. 英・独・仏と EU 13. EU 域外との関係 14. まとめ：EU の現在の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：授業の際に指示します。		授業における小テスト（3 回程度実施、30%）と期末レポートまたは試験（70%）	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。 [概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が活かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかることがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい		1. ガイダンス 2. コーパスとは何か、身近な活用例 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus (BNC) の紹介 7. BNC を利用した語彙リストの作成 8. BNC を利用した語彙リストの比較 9. BNC を利用した語句検索 10. BNC を利用した共起検索 11. 品詞の特徴と分析 12. DIY コーパス（映画、小説、教科書、etc.）(1) 13. DIY コーパス（映画、小説、教科書、etc.）(2) 14. <u>最終レポート</u>の準備	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 春学期に引き続きコーパス分析を行うが、今学期は日本人英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者のアウトプットデータを分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に活かすことを目的とする。 [概要] 主に日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う（日本人中高生 1 万人の英作文を集めた JEFLL Corpus にも触れる）。このコーパスは異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めることができる。分析は、語彙、文法、談話、誤り等の観点から行う。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「情報科学各論（言語情報処理 1）」を受講していることが望ましい		1. ガイダンス 2. 学習者コーパスとは何か、身近な活用例 3. NICT JLE Corpus の概要 4. 流暢さの分析 (1) 5. 流暢さの分析 (2) 6. 使用語彙の分析 (1) 7. 使用語彙の分析 (2) 8. 使用文法事項の分析 (1) 9. 使用文法事項の分析 (2) 10. 誤り分析 (1) 11. 誤り分析 (2) 12. 誤り分析 (3) 13. <u>最終レポート</u>の準備 (1) 14. <u>最終レポート</u>の準備 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいたとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算（計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等） 4 Excel 関数（算術・統計関数を中心に） 5 Excel 関数（文字列操作関数を中心に） 6 Excel 関数（論理関数を中心に） 7 Excel 関数のネスト（1） 8 Excel 関数のネスト（2） 9 Excel 関数のネスト（3） 10 データベース処理（並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索） 11 データベース処理（クロス集計とピボットテーブル） 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構築を練る：データ収集の方法など 14 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（ http://www.yuchan.com/~gengojoho/ ）を参照すること。		学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょ。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコダンスの利用(1)：コロケーションを調べる (MI-Score)。 5 コンコダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる (t-score)。 6 コンコダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 11 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー 12 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数 13 語彙密度・K 特性値 14 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（ http://www.yuchan.com/~gengojoho/ ）を参照すること。		学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点(課題の途中経過を含む)で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー(禁飲食等)を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。	

03 年度以降	経済原論 a	担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要： 経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。春学期は、家計に代表される消費者と企業に代表される生産者の行動に焦点を当てるミクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。		1. 経済学とは何か 2. 需要と供給 ① 3. 需要と供給 ② 4. 消費者行動 ① 5. 消費者行動 ② 6. 消費者行動 ③ 7. 生産者行動 ① 8. 生産者行動 ② 9. 生産者行動 ③ 10. 余剰分析 11. 価格規制、数量規制、課税の影響 12. 不完全競争 ① 13. 不完全競争 ② 14. まとめ	
講義目的： ミクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

03 年度以降	経済原論 b	担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要： 経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。秋学期は、一国全体の経済に焦点を当てるマクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。		1. マクロ経済学の全体像 2. 国民経済計算と GDP（国内総生産） 3. 国民所得の決定メカニズム ① 4. 国民所得の決定メカニズム ② 5. 財政政策 6. 貨幣の機能 ① 7. 貨幣の機能 ② 8. 金融政策 9. IS-LM 分析 ① 10. IS-LM 分析 ② 11. 物価変動と失業 ① 12. 物価変動と失業 ② 13. 経済成長 14. まとめ	
講義目的： マクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

シラバス ドイツ語学科

2010年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	